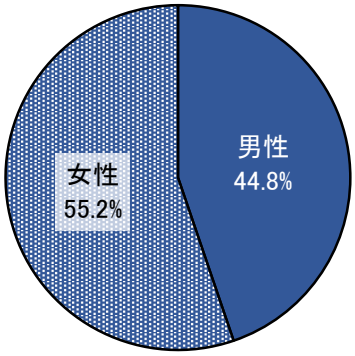
Ⅱ　調査結果概要

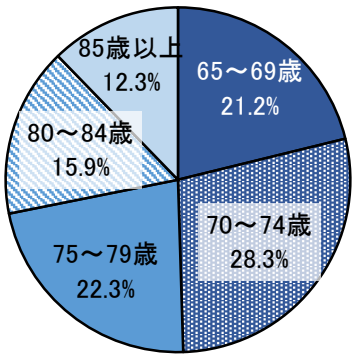
1　回答者の属性

【性別】



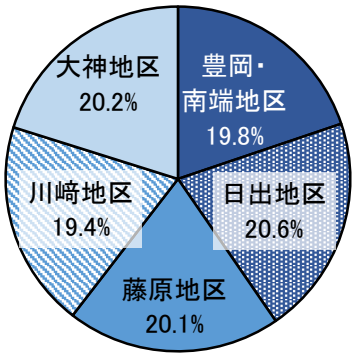
（n=2,064）

【年齢】



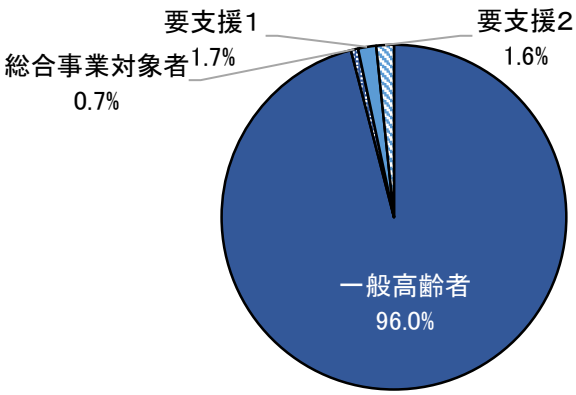
（n=2,064）

【地区】



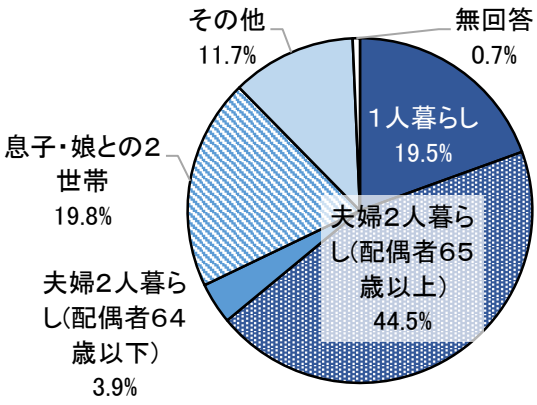
（n=2,064）

【介護区分】



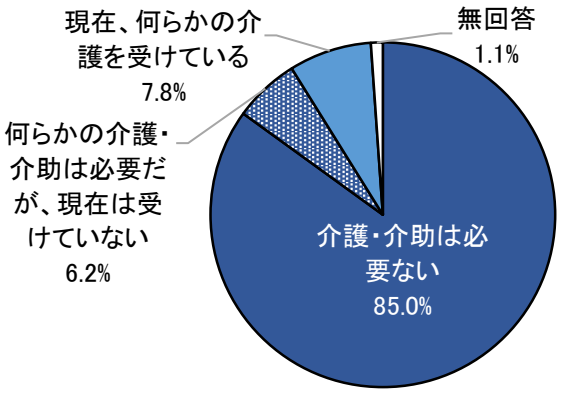
（n=2,064）

【家族構成】



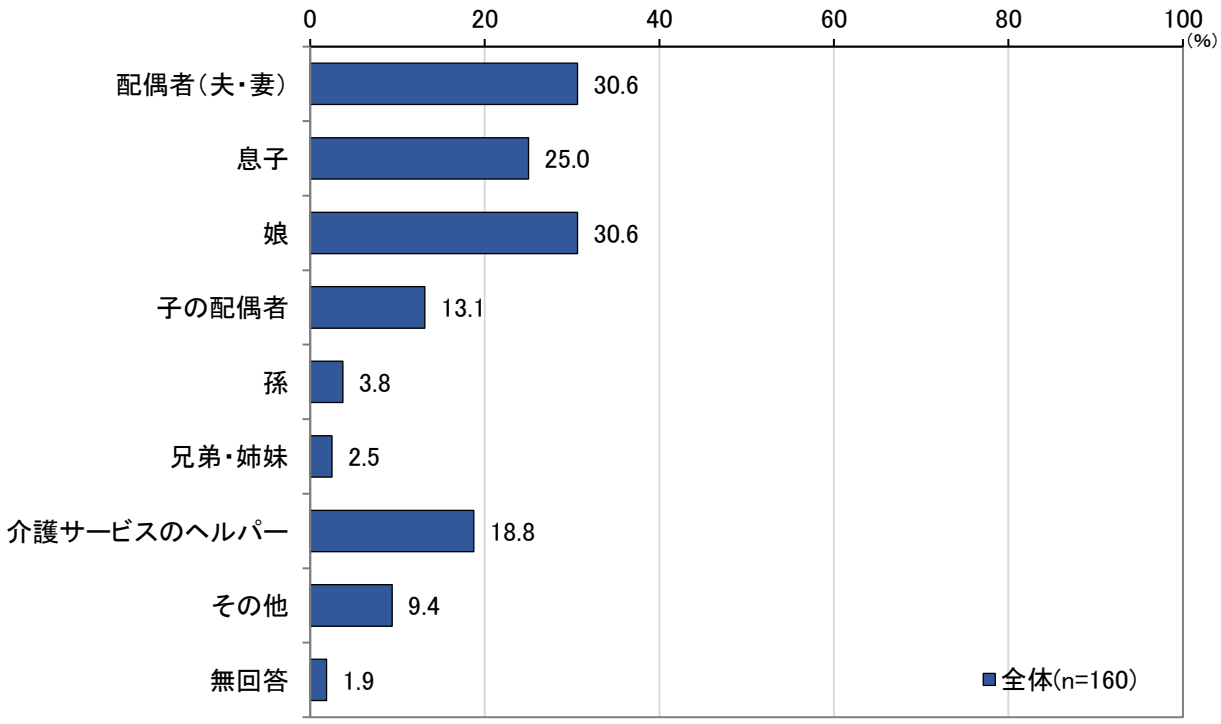
（n=2,064）

【介護・介助の必要性】



（n=2,064）

【介護・介助を誰に受けているか】



２　リスクの発生状況

１．からだを動かす

（１）運動器の機能低下

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（１）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	「３．できない」
問２（２）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「３．できない」
問２（３）	15 分位続けて歩いていますか	「３．できない」
問２（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	「１．何度もある」 「２．１度ある」
問２（５）	転倒に対する不安は大きいですか	「１．とても不安である」 「２．やや不安である」

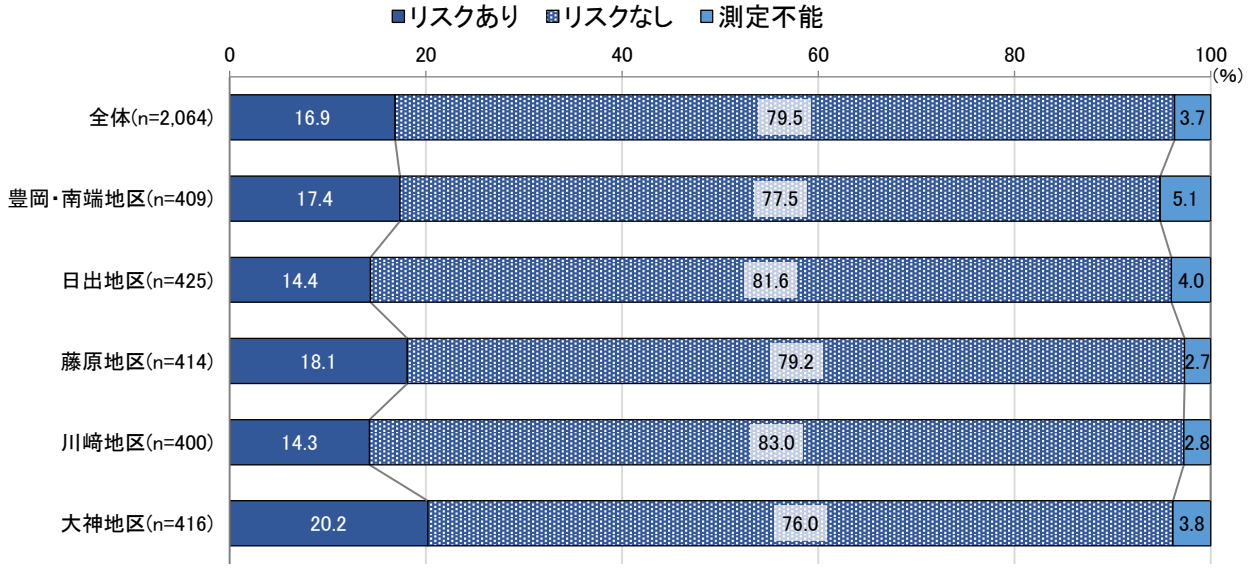
この設問で３問以上、該当する選択肢が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者（リスクあり）になります。

①　地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 16.9%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「大神地区」が 20.2%と最も高く、「川崎地区」が 14.3%と最も低くなっており、5.9 ポイント差となっています。

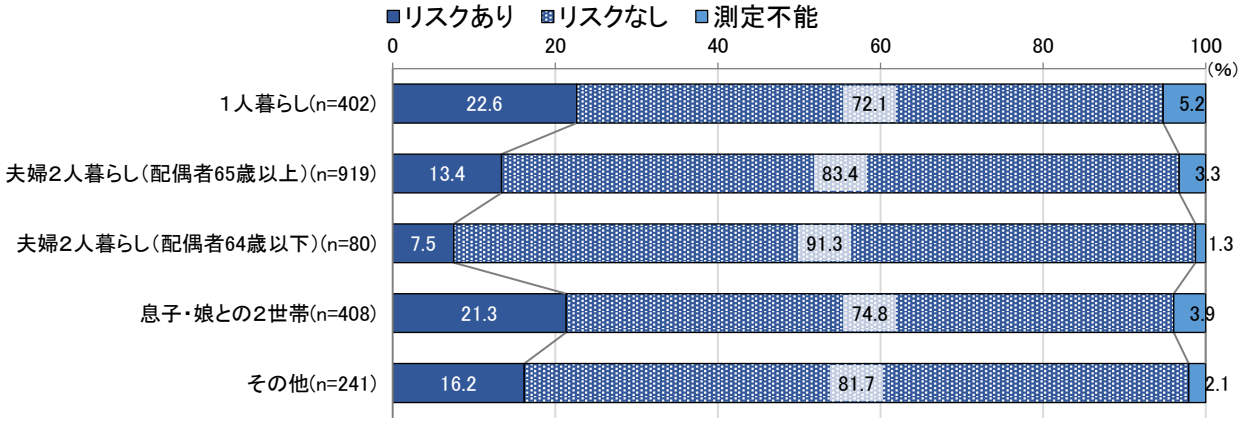
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「１人暮らし」が 22.6%と最も高く、次いで「息子・娘との２世帯」が 21.3%となっています。

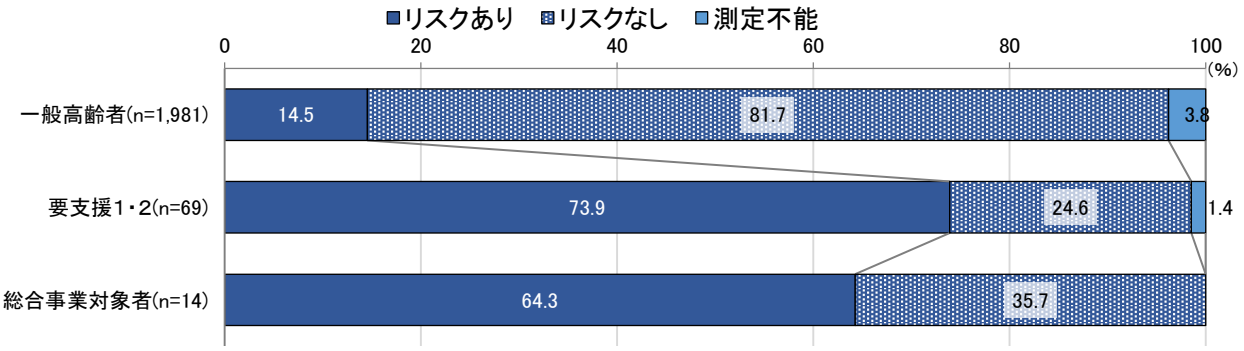
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 14.5%、「要支援１・２」が 73.9%となっています。

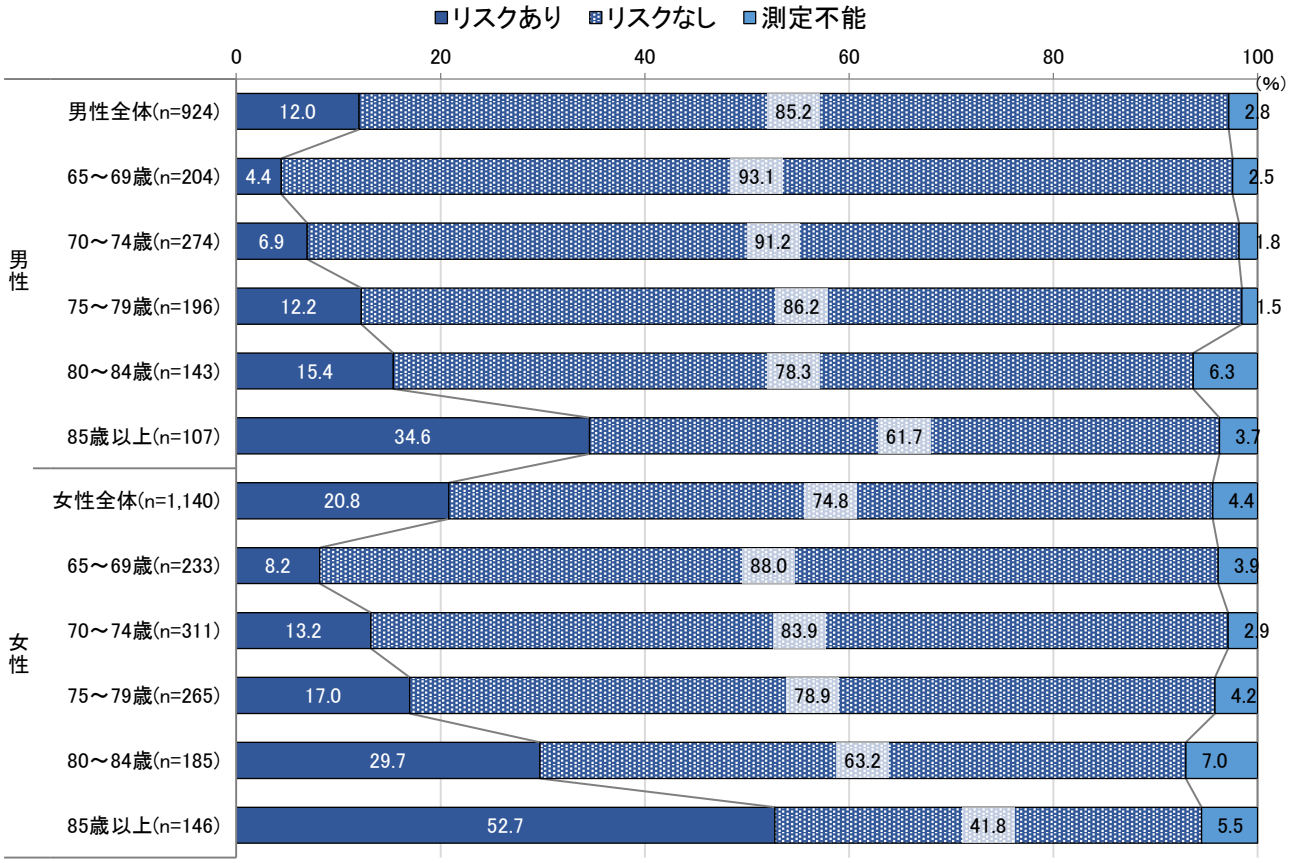
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「リスクあり」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 34.6%、女性が 52.7%となっています。

（性別・年齢別）



（２）転倒リスク

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	「１．何度もある」 「２．１度ある」

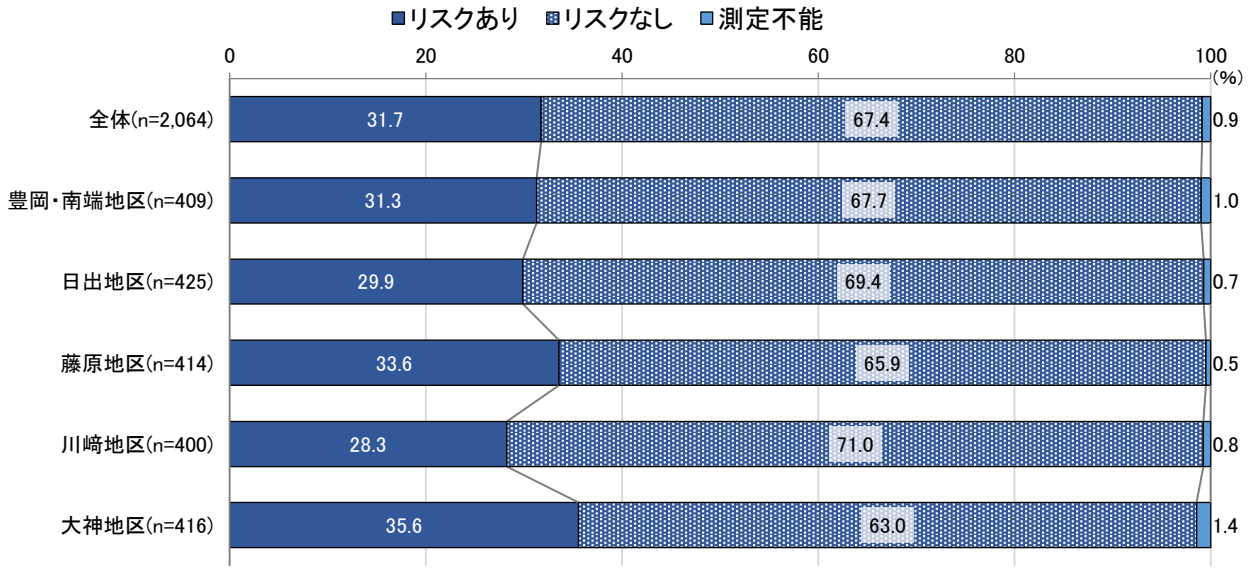
問２（４）で「１．何度もある」「２．１度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 31.7%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「大神地区」が 35.6%と最も高く、「川崎地区」が 28.3%と最も低くなっており、7.3 ポイント差となっています。

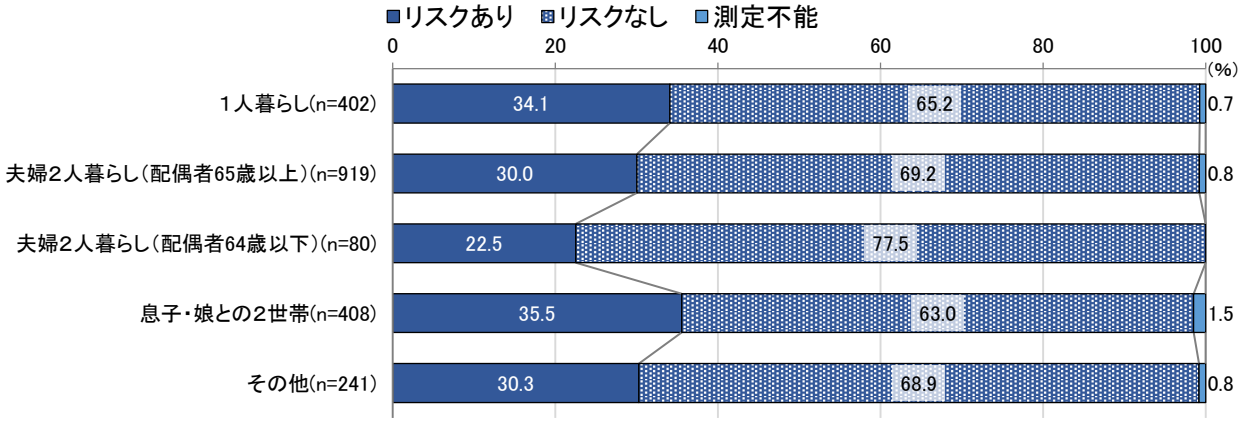
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「息子・娘との２世帯」が 35.5%と最も高く、次いで「１人暮らし」が 34.1%となっています。

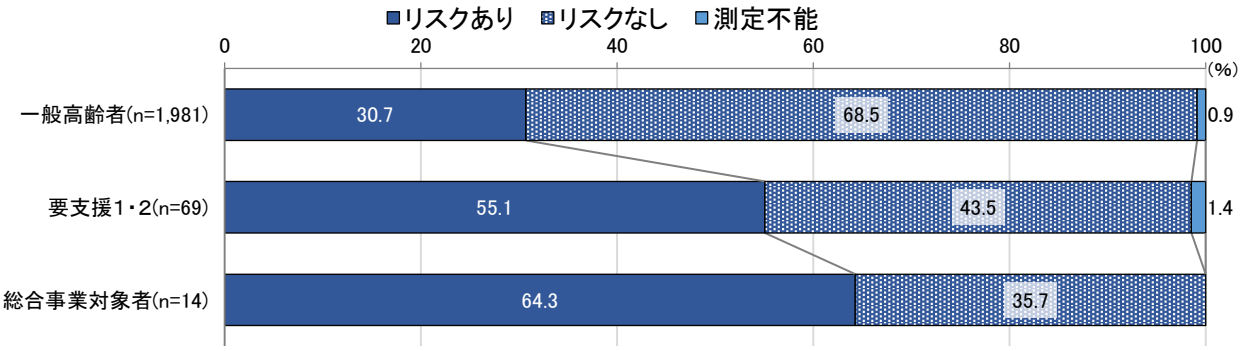
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 30.7%、「要支援１・２」が 55.1%となっています。

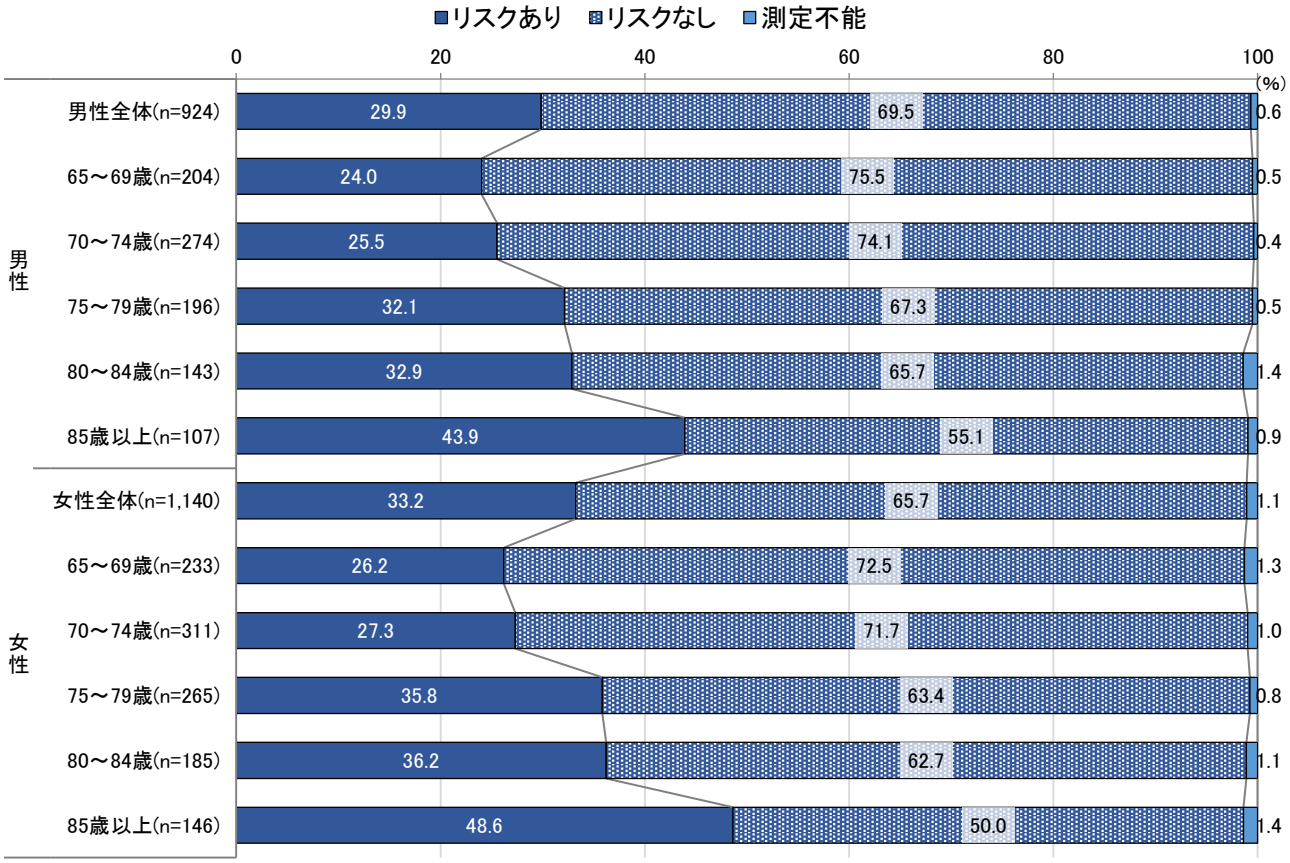
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「リスクあり」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 43.9%、女性が 48.6%となっています。

（性別・年齢別）



（３）閉じこもり傾向

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（６）	週に１回以上は外出していますか	「１．ほとんど外出しない」 「２．週１回」

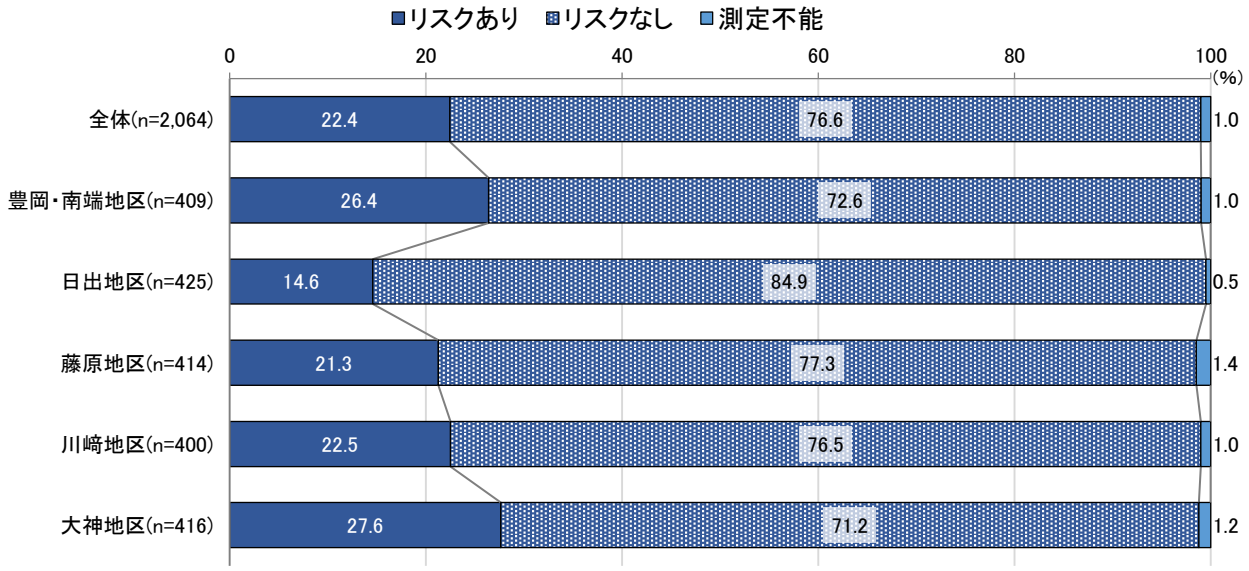
問２（６）で「１．ほとんど外出しない」「２．週１回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 22.4%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「大神地区」が 27.6%と最も高く、「日出地区」が 14.6%と最も低くなっており、13.0 ポイント差となっています。

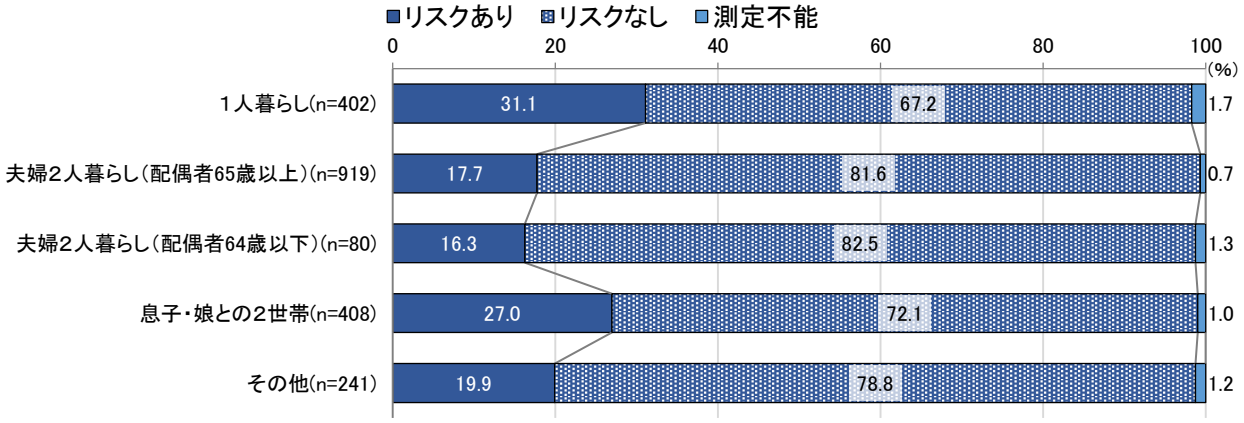
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「１人暮らし」が 31.1%と最も高く、次いで「息子・娘との２世帯」が 27.0%となっています。

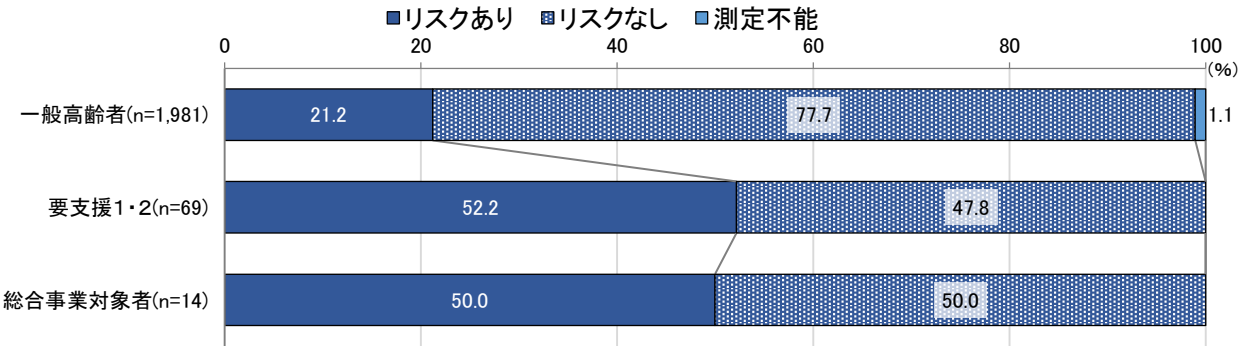
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 21.2%、「要支援１・２」が 52.2%となっています。

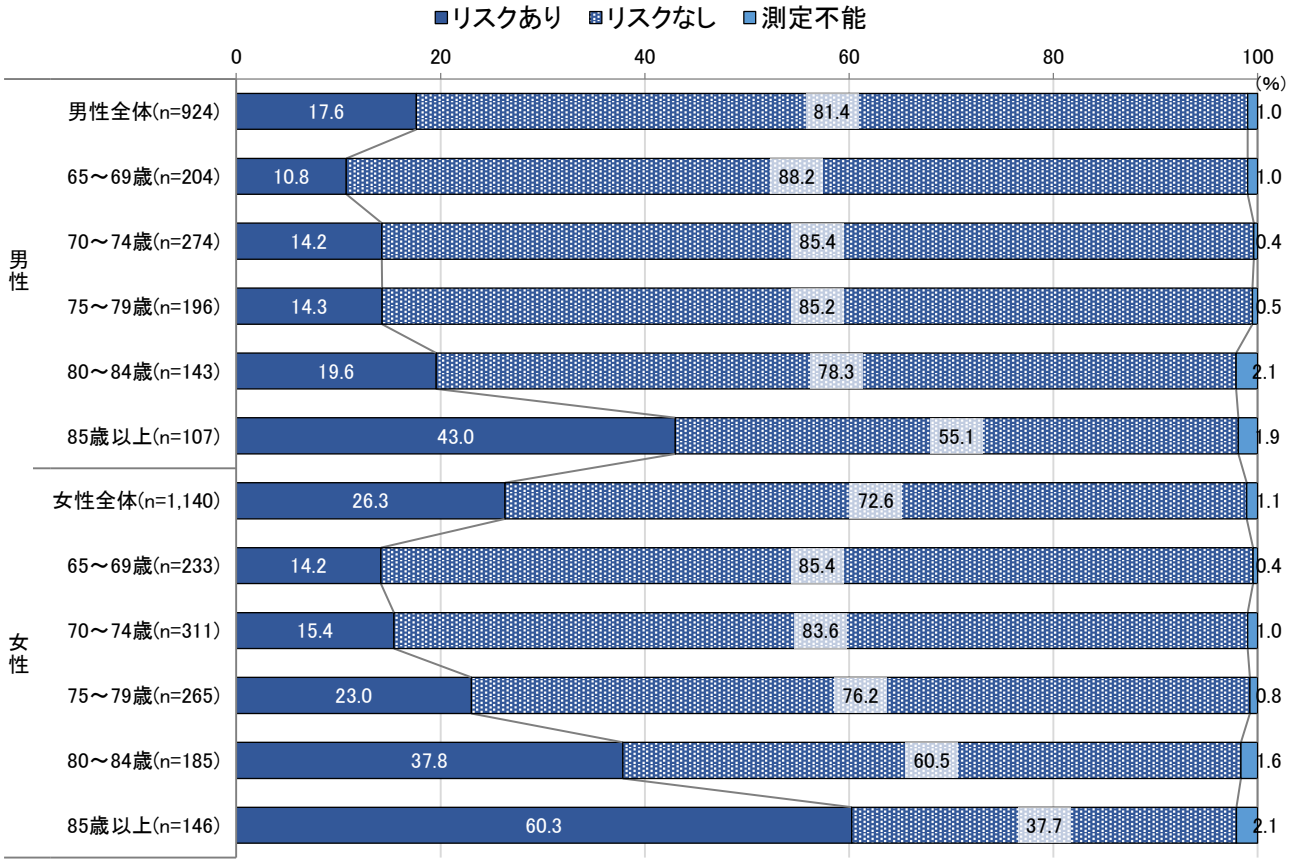
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「リスクあり」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 43.0%、女性が 60.3%となっています。

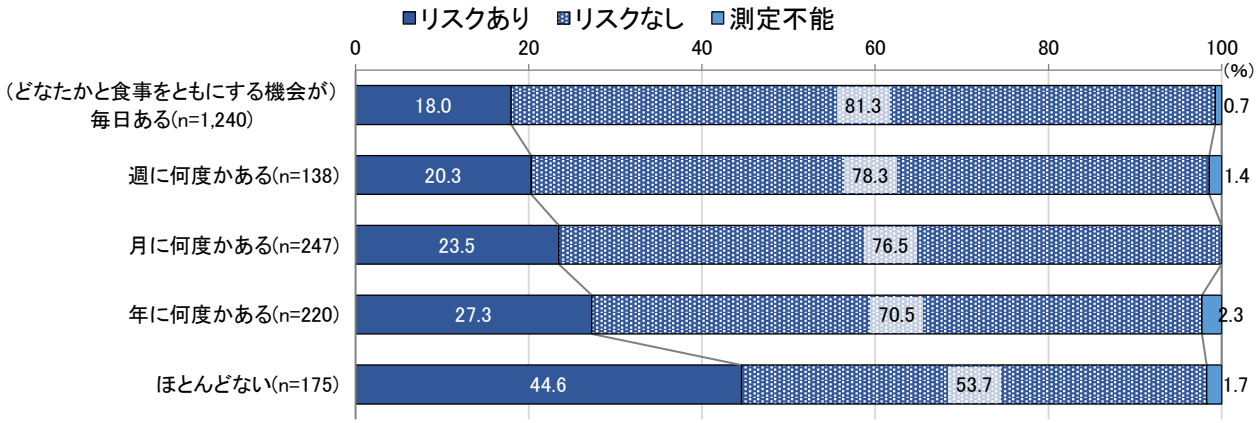
（性別・年齢別）



⑤　孤食との関係

食事状況別でみると、誰かと食事をともにする機会が少ないほど「リスクあり」は高くなっています。特に、「ほとんどない」が 44.6%となっています。

（食事状況別）



（4）各リスクと他設問との関係

①　外出回数

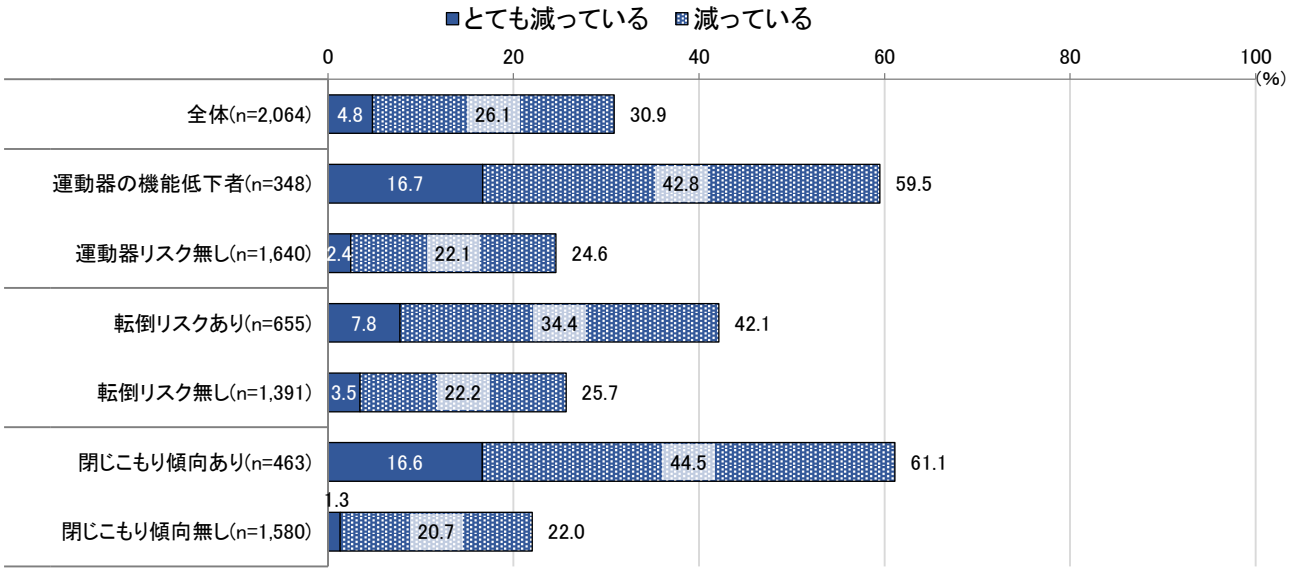
対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（７）	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「１．とても減っている」 「２．減っている」

外出回数を「運動器の機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」にてクロス集計を行い、外出回数とリスク者の関係性を分析しました。

「運動器の機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」の全てにおいて、リスク者は外出回数が減少していることが分かります。

（全体・機能評価別）



② 転倒不安

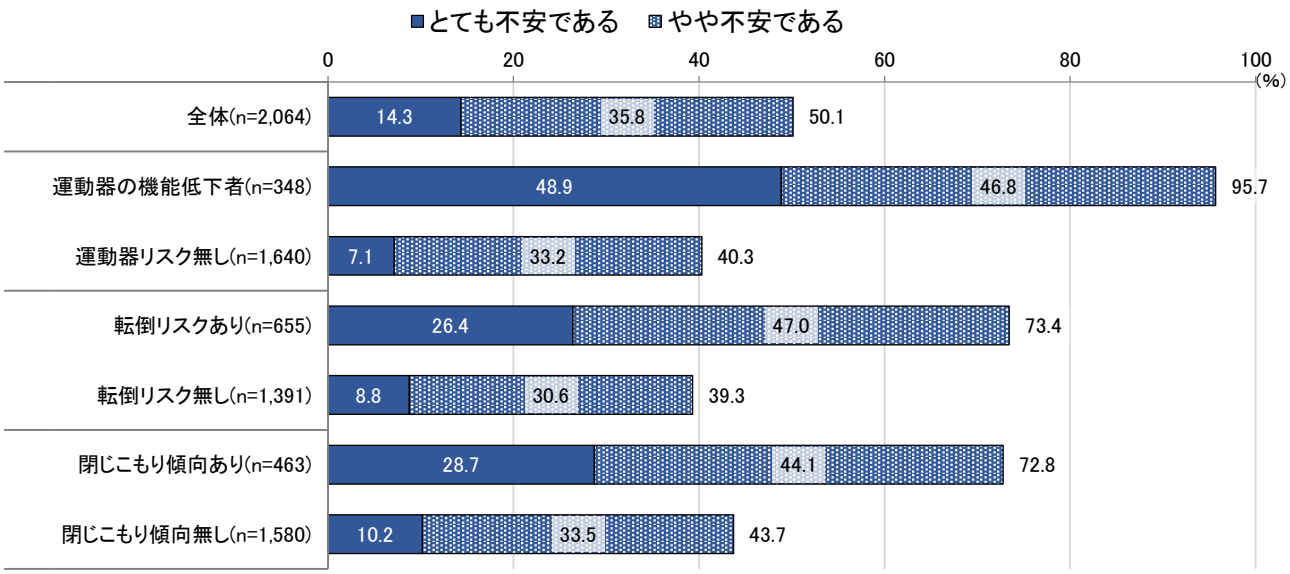
対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（５）	転倒に対する不安は大きいですか	「１．とても不安である」 「２．やや不安である」

転倒不安を「運動器の機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」にてクロス集計を行い、転倒不安とリスク者の関係性を分析しました。

「運動器の機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」の全てにおいて、リスク者は転倒不安が高くなっていることが分かります。

（全体・機能評価別）



③　転倒不安×転倒回数

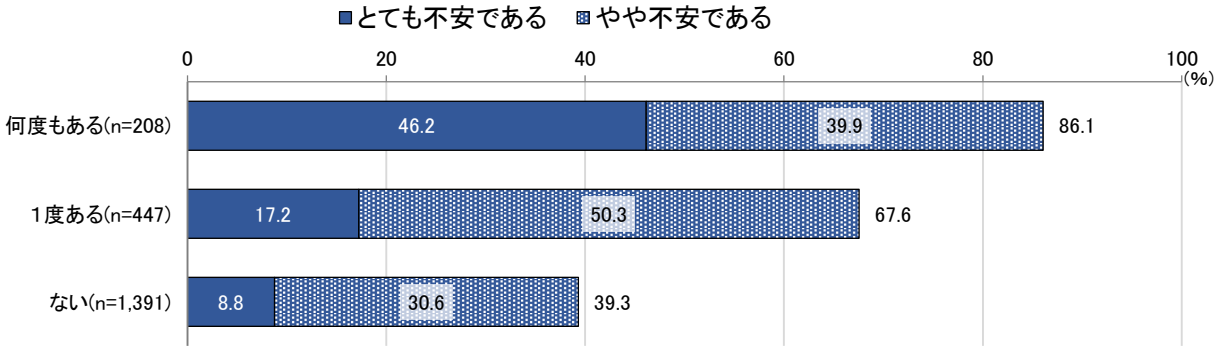
対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問２（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	「１．何度もある」 「２．１度ある」 「３．ない」
問２（５）	転倒に対する不安は大きいですか	「１．とても不安である」 「２．やや不安である」

転倒不安を過去１年間の転倒回数にてクロス集計を行い、転倒不安と転倒回数の関係性を分析しました。

転倒回数が多くなるにつれて、転倒不安が高くなっていることが分かります。

（全体・機能評価別）



２．食べる

（１）低栄養の傾向

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問３（１）	身長・体重（ＢＭＩ）	ＢＭＩ 18.5 未満
問３（７）	６カ月間で２～３kg 以上の体重減少がありましたか	「１．はい」

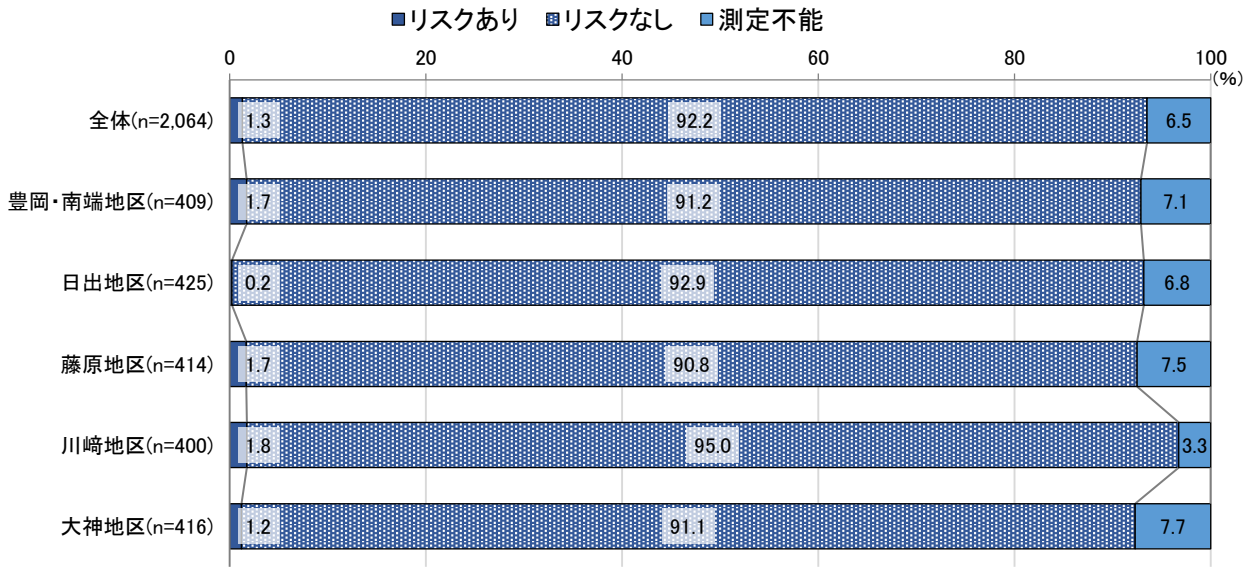
身長・体重から算出される BMI（体重（kg）÷｛身長（m）×身長（m）｝）が 18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。低栄養状態を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、体重の減少傾向を把握する「6 ヶ月間で２～３kg 以上の体重減少がありましたか」も併せて確認し、２設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 1.3%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「川崎地区」が 1.8%と最も高く、「日出地区」が 0.2%と最も低くなっており、1.6 ポイント差となっています。

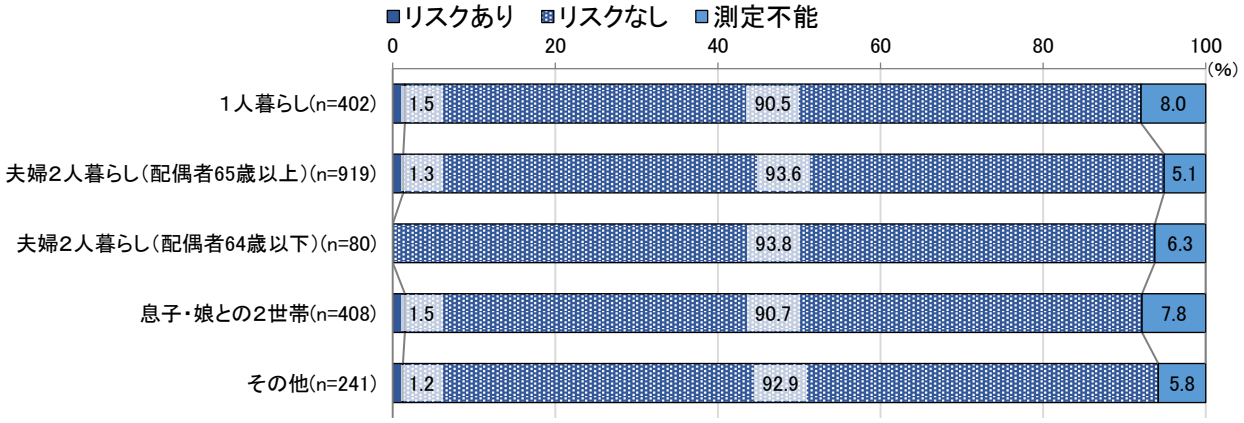
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「１人暮らし」と「息子・娘との２世帯」が 1.5%と最も高くなっています。

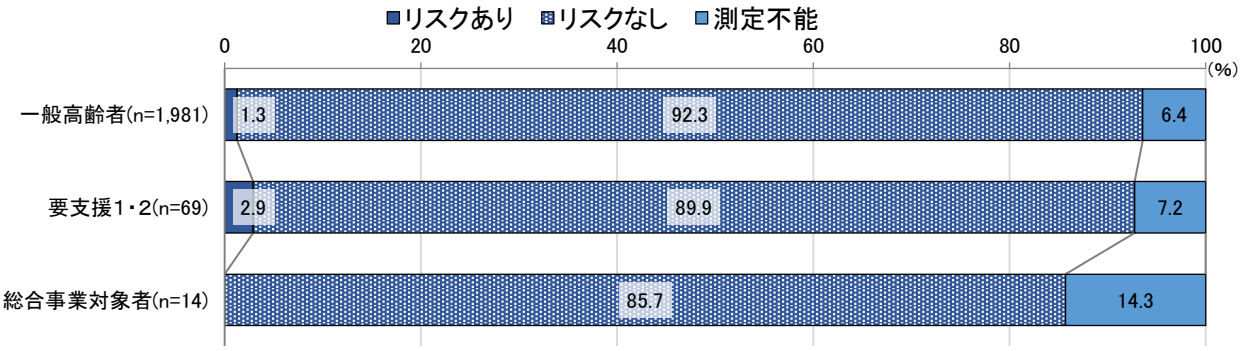
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 1.3%、「要支援１・２」が 2.9%となっています。

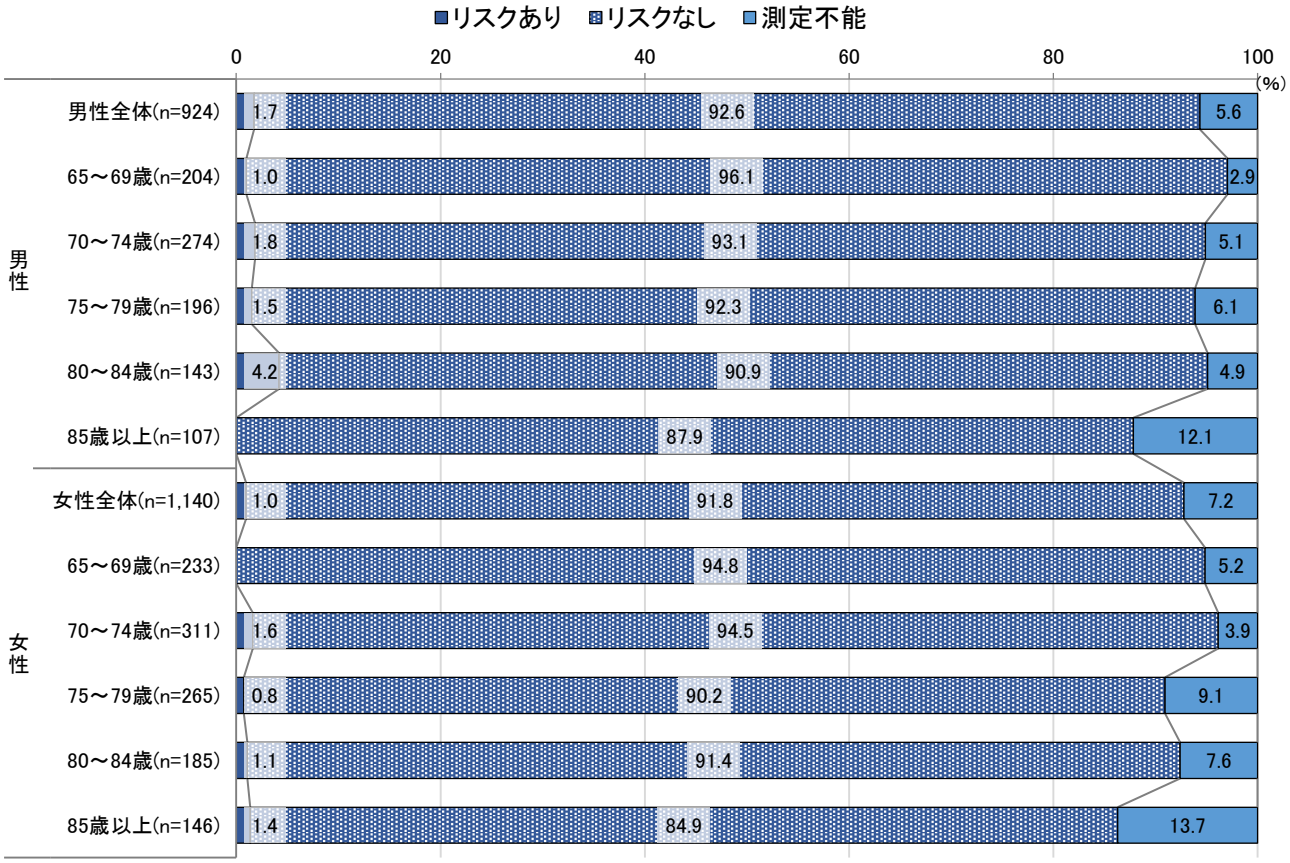
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢による差は見られませんでした。「リスクあり」は 80～84 歳男性が 4.2%と最も高くなっています。

（性別・年齢別）



（２）口腔機能の低下

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問３（２）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「１．はい」
問３（３）	お茶や汁物等でむせることがありますか	「１．はい」
問３（４）	口の渇きが気になりますか	「１．はい」

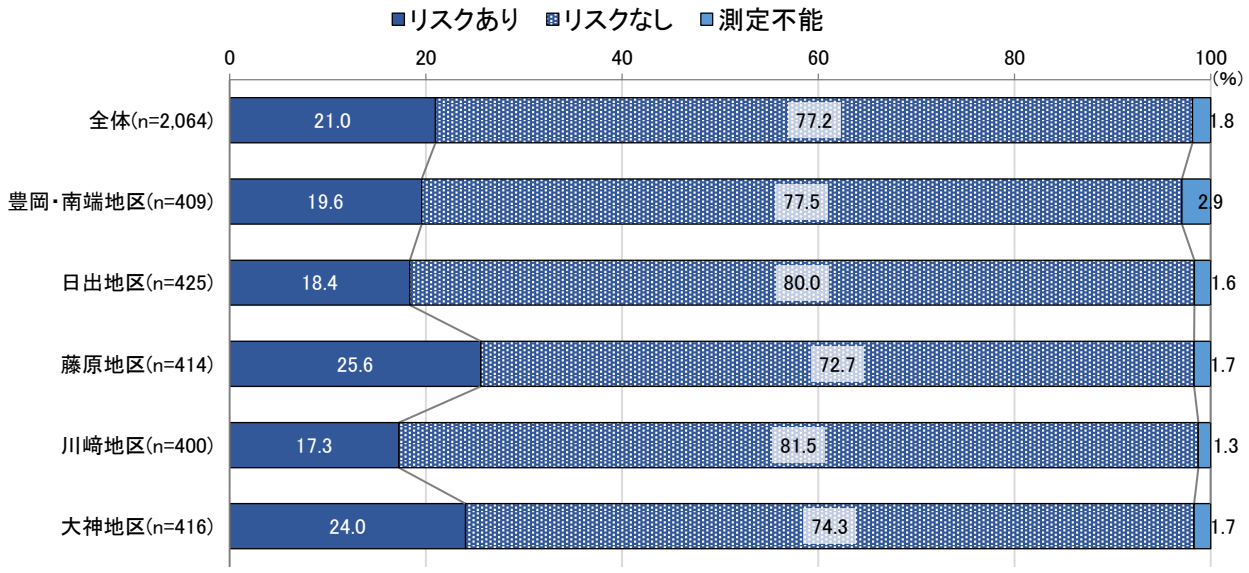
問３（２）で「１．はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。口腔機能の低下を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」も併せて確認し、３設問のうち２設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 21.0%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「藤原地区」が 25.6%と最も高く、「川崎地区」が 17.3%と最も低くなっており、8.3 ポイント差となっています。

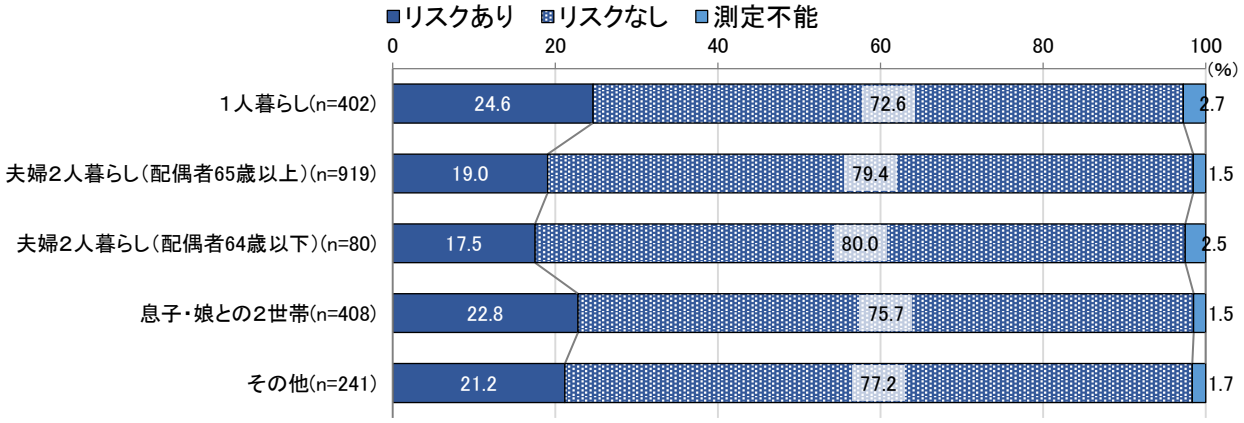
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「１人暮らし」が 24.6%と最も高く、次いで「息子・娘との２世帯」が 22.8%となっています。

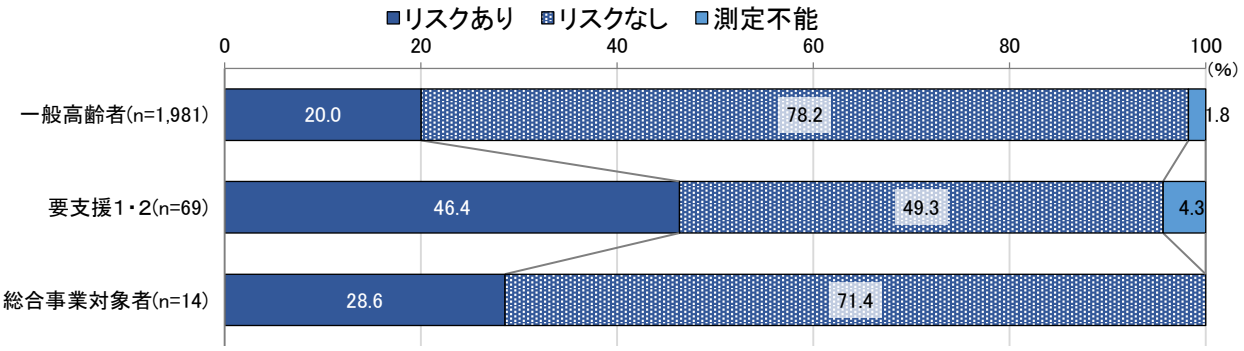
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 20.0%、「要支援１・２」が 46.4%となっています。

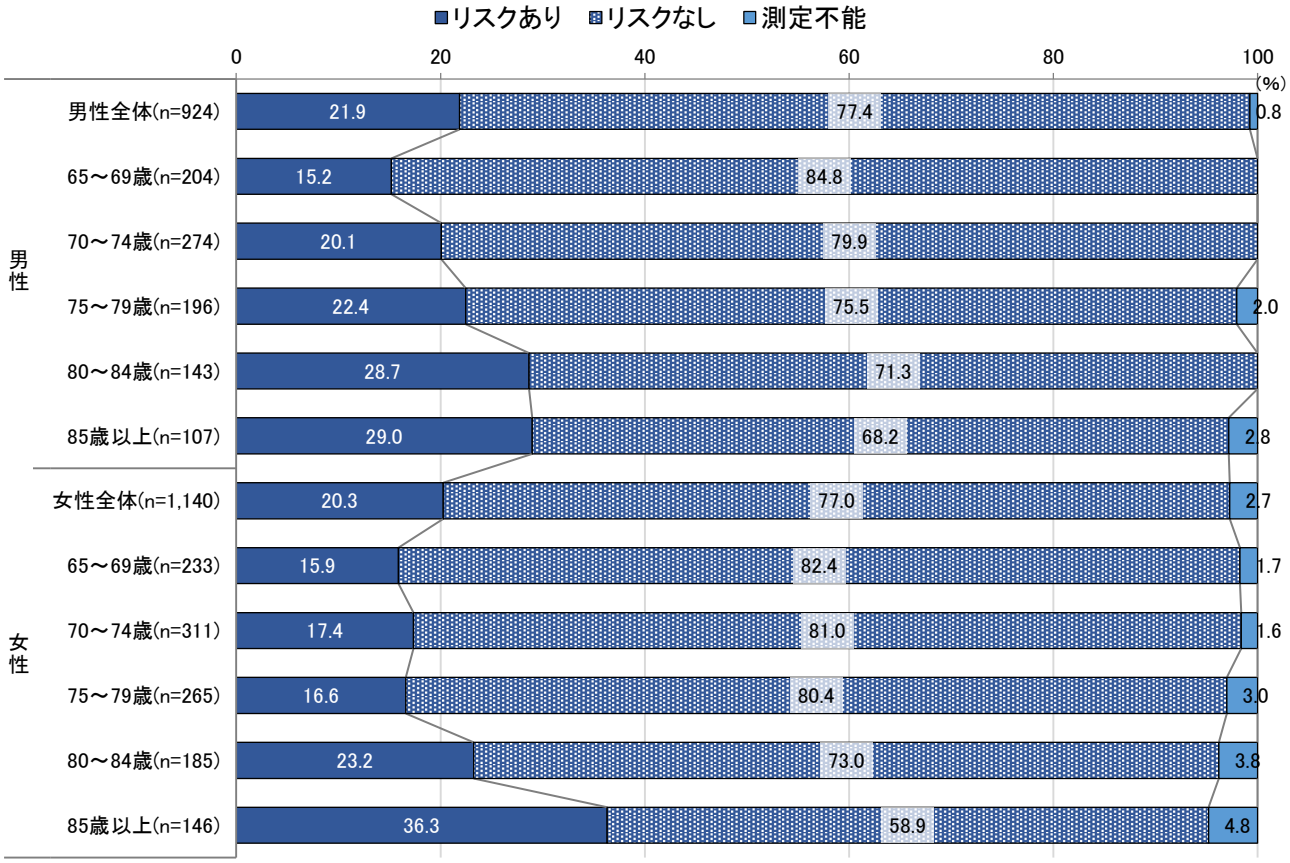
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「リスクあり」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 29.0%、女性が 36.3%となっています。

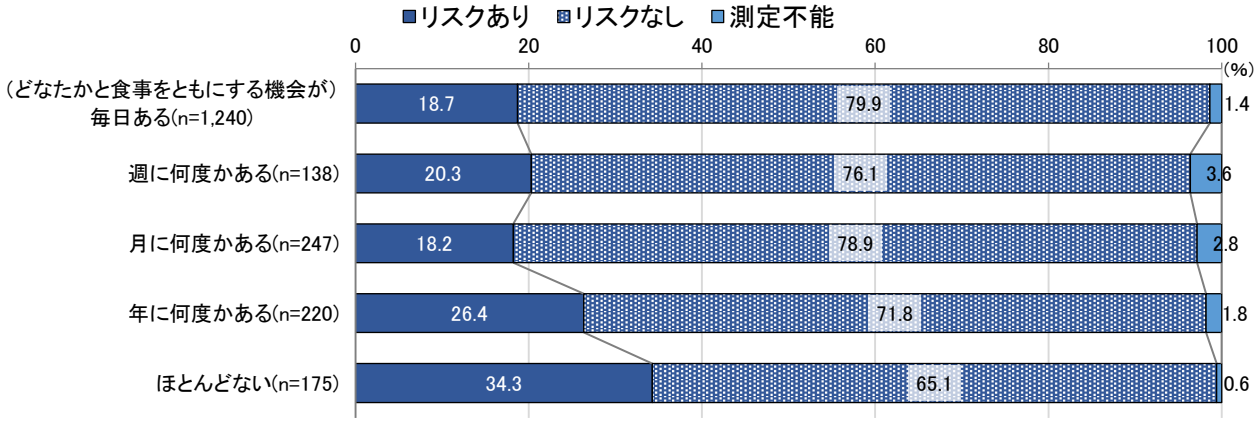
（性別・年齢別）



⑤　孤食との関係

食事状況別でみると、誰かと食事をともにする機会が少ないほど「リスクあり」は高くなっています。特に、「ほとんどない」が 34.3%となっています。

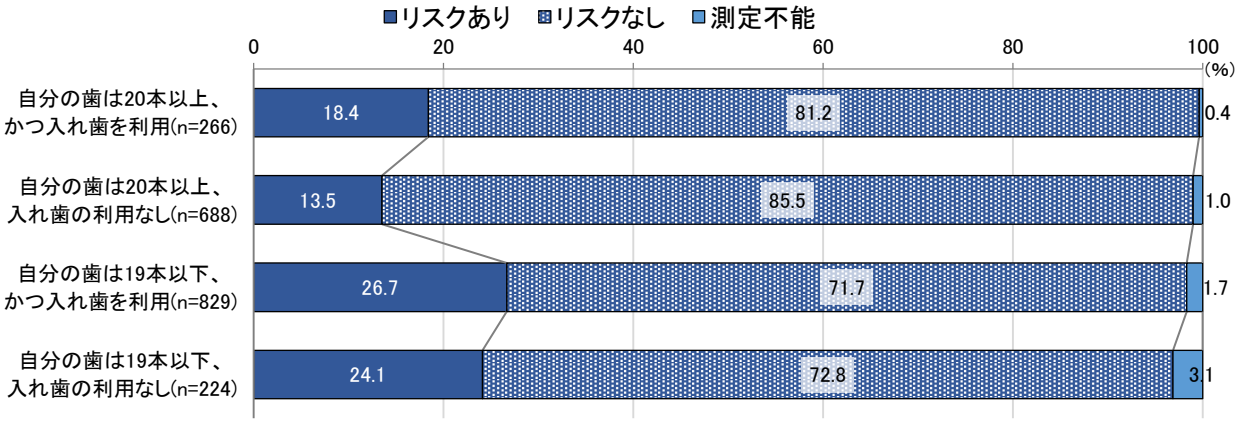
（食事状況別）



⑥　義歯の有無との関係

歯の状況別でみると、歯の本数が 19 本以下だと「リスクあり」は高くなっています。特に、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 26.7%となっています。

（歯の状況別）



３．毎日の生活

（１）認知機能の低下

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問４（１）	物忘れが多いと感じますか	「１．はい」

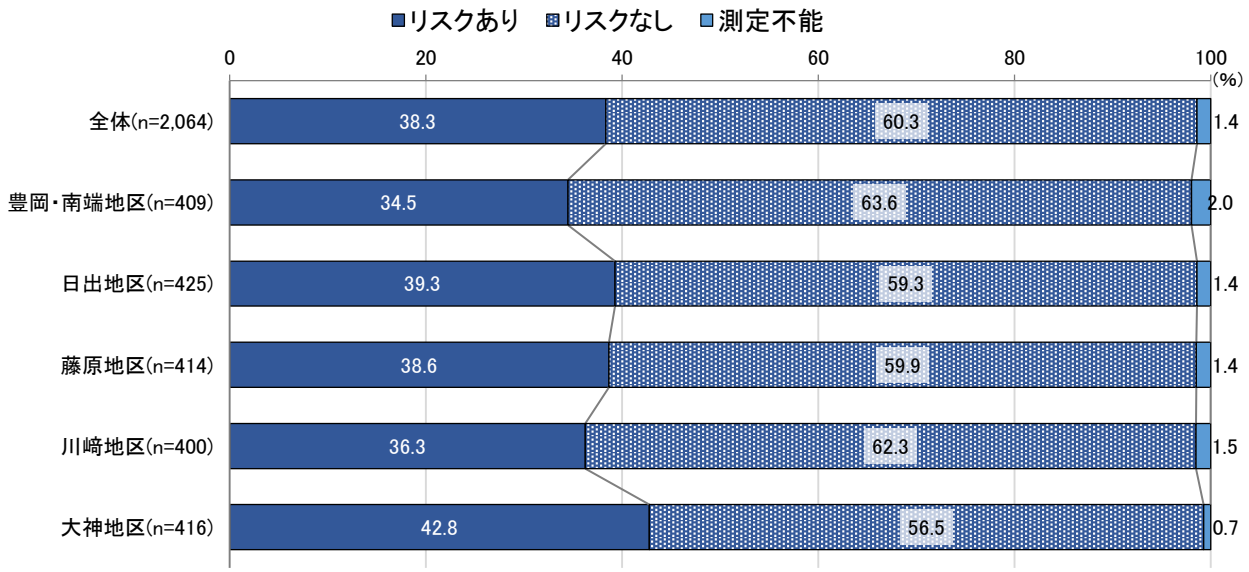
問４（１）で「１．はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 38.3%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「大神地区」が 42.8%と最も高く、「豊岡・南端地区」が 34.5%と最も低くなっており、8.3 ポイント差となっています。

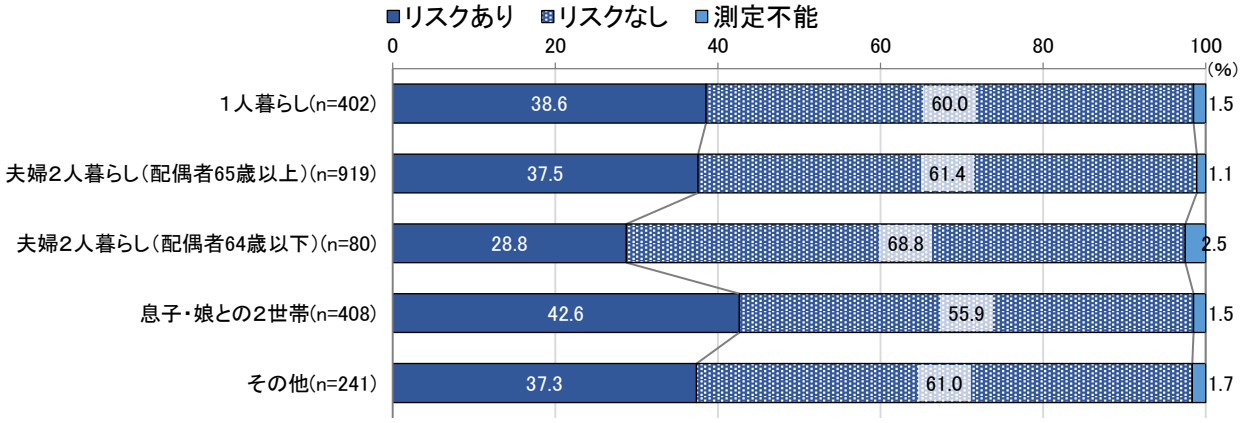
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「息子・娘との２世帯」が 42.6%と最も高く、次いで「１人暮らし」が 38.6%となっています。

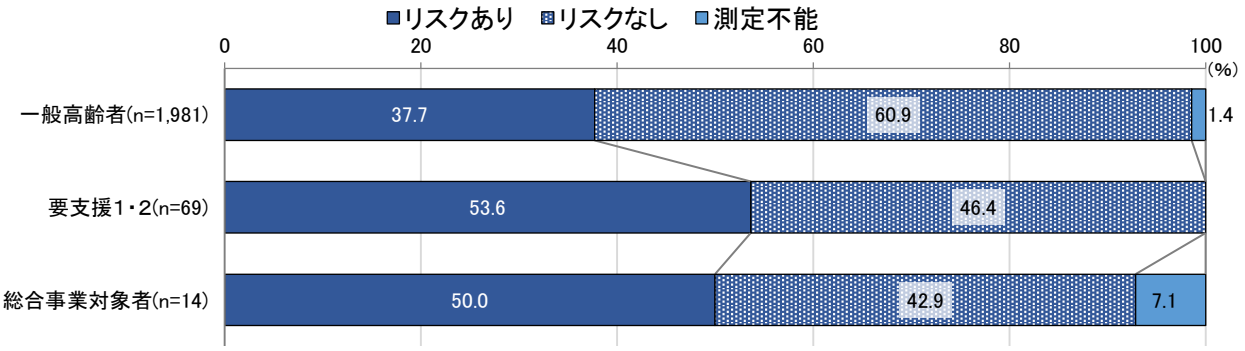
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 37.7%、「要支援１・２」が 53.6%となっています。

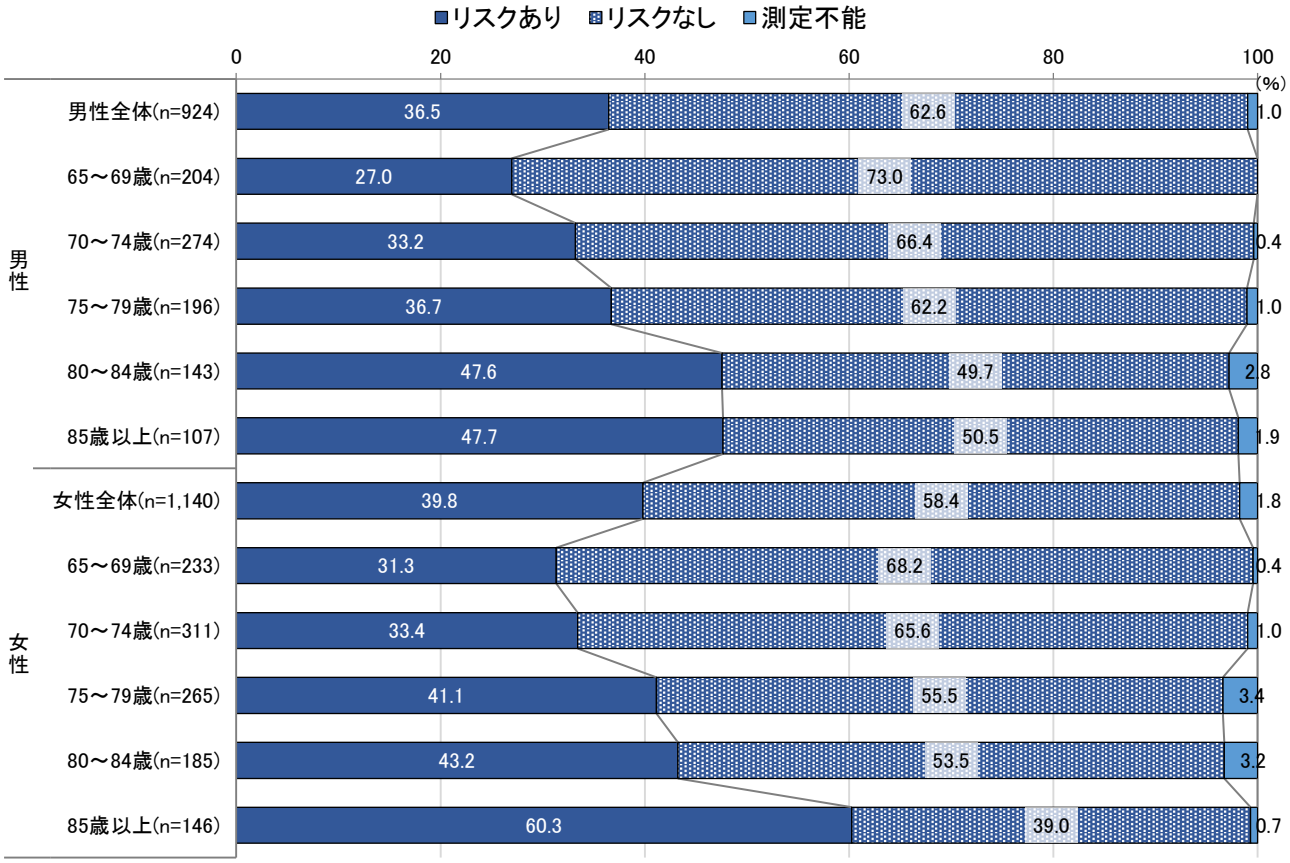
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「リスクあり」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 47.7%、女性が 60.3%となっています。

（性別・年齢別）



（２）ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問４（３）	バスや電車を使って一人で外出していますか （自家用車でも可）	「１．できるし、している」 「２．できるけどしていない」
問４（４）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「１．できるし、している」 「２．できるけどしていない」
問４（５）	自分で食事の用意をしていますか	「１．できるし、している」 「２．できるけどしていない」
問４（６）	自分で請求書の支払いをしていますか	「１．できるし、している」 「２．できるけどしていない」
問４（７）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「１．できるし、している」 「２．できるけどしていない」

上記設問で、「１．できるし、している」「２．できるけどしていない」と回答した場合を１点として、５点満点でＩＡＤＬ※を評価します（５点を「１．高い」、４点を「２．やや低い」、３点以下を「３．低い」とします。

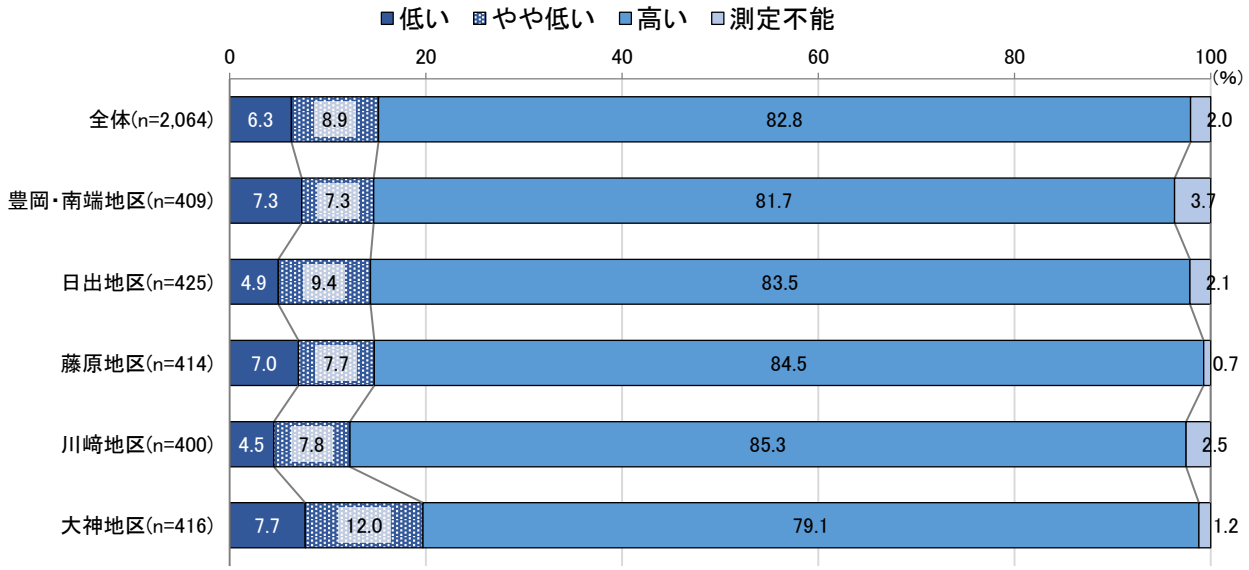
※ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）とは、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、ＡＤＬ（日常生活動作）ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するものです。

① 地域分布

全体でみると、「低い」は 6.3%となっています。

地域別でみると、「低い」は「大神地区」が 7.7%と最も高く、「川崎地区」が 4.5%と最も低くなっており、3.2 ポイント差となっています。

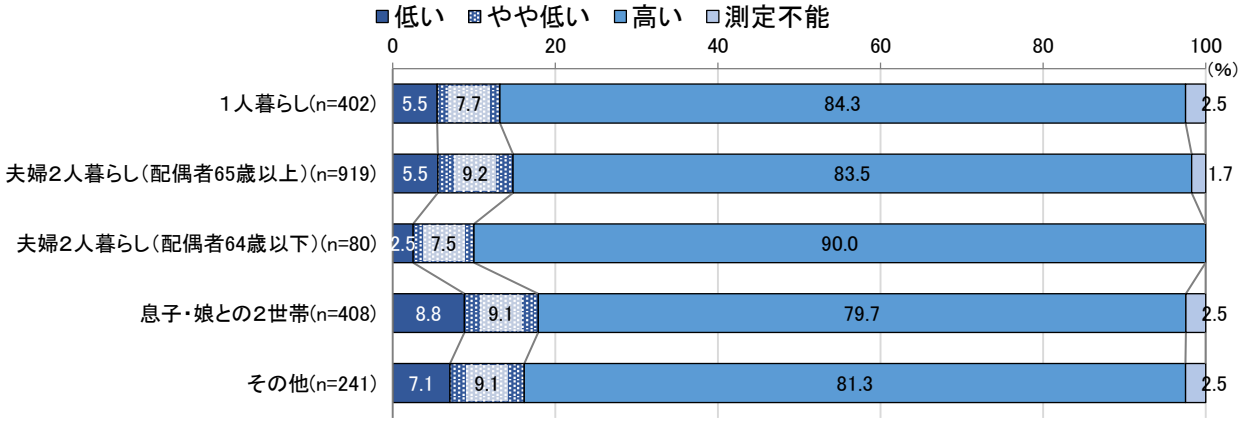
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「低い」は「息子・娘との２世帯」が 8.8%と最も高く、次いで「その他」が 7.1%となっています。

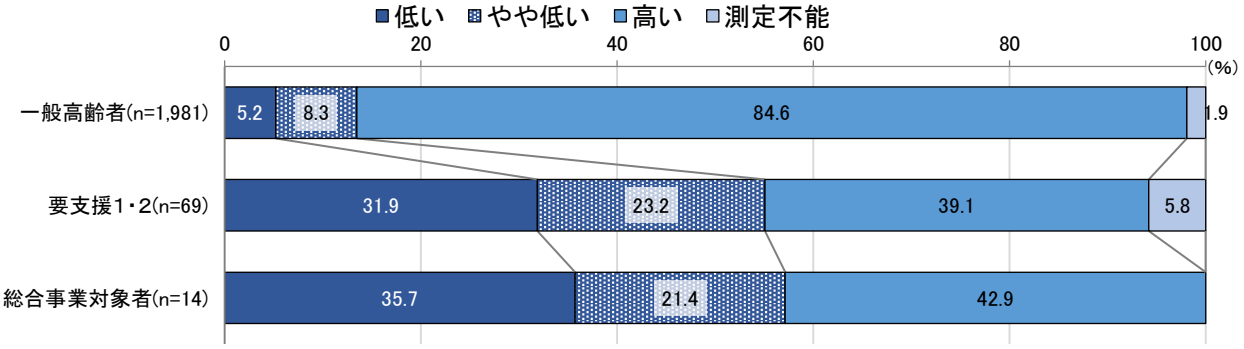
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「低い」は「一般高齢者」が 5.2%、「要支援１・２」が 31.9%となっています。

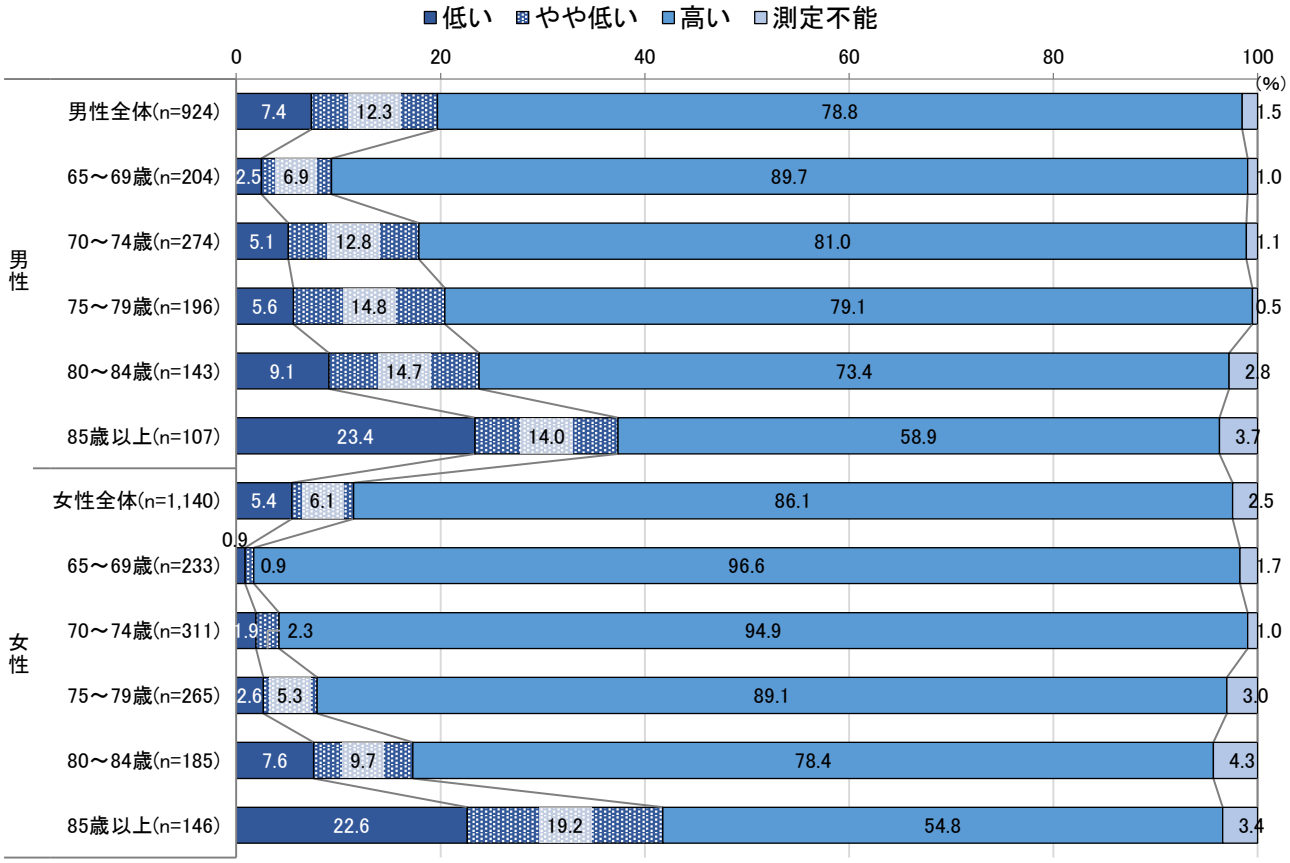
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「低い」は高くなっています。特に、85 歳以上では男性が 23.4%、女性が 22.6%となっています。

（性別・年齢別）



４．健康と幸せ

（１）うつ傾向

対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問７（３）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「１．はい」
問７（４）	この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「１．はい」

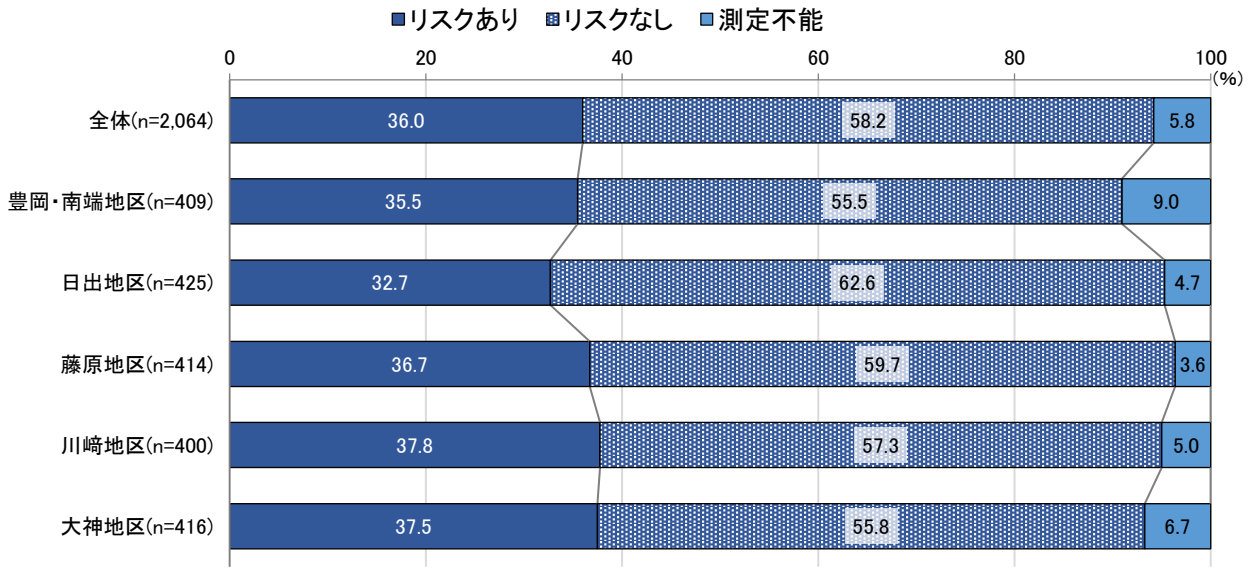
問７（３）（４）でいずれか１つでも「１．はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者（リスクあり）になります。

① 地域分布

全体でみると、「リスクあり」は 36.0%となっています。

地域別でみると、「リスクあり」は「川崎地区」が 37.8%と最も高く、「日出地区」が 32.7%と最も低くなっており、5.1 ポイント差となっています。

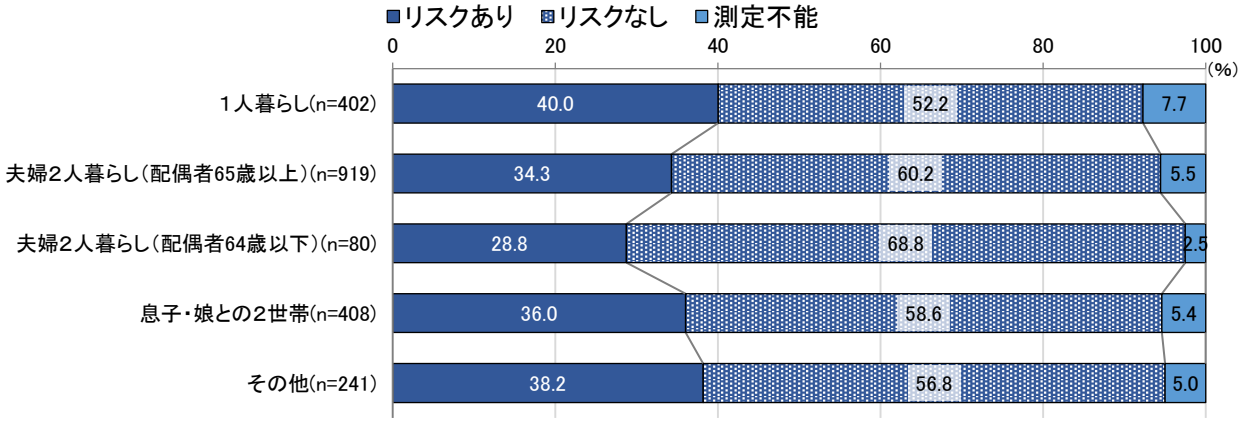
（全体・地域別）



② 家族構成別の状況

家族構成でみると、「リスクあり」は「１人暮らし」が 40.0%と最も高く、次いで「その他」が 38.2%となっています。

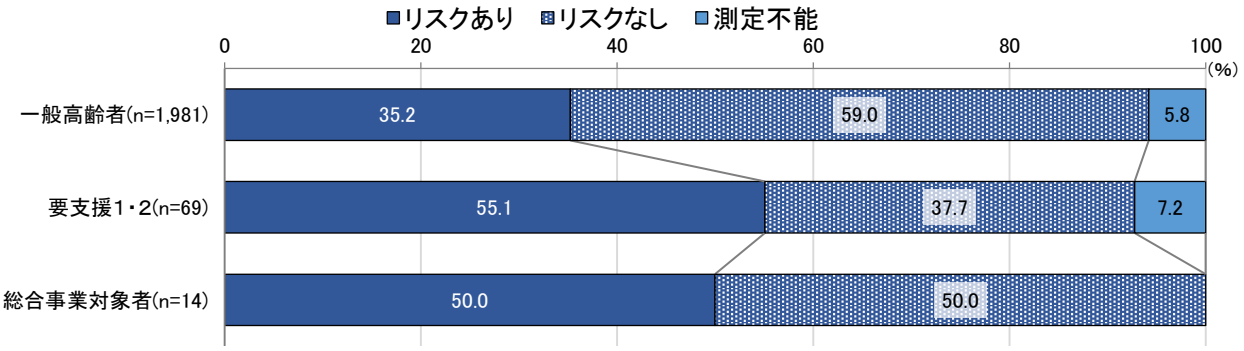
（家族構成別）



③ 介護区分別の状況

介護区分別でみると、「リスクあり」は「一般高齢者」が 35.2%、「要支援１・２」が 55.1%となっています。

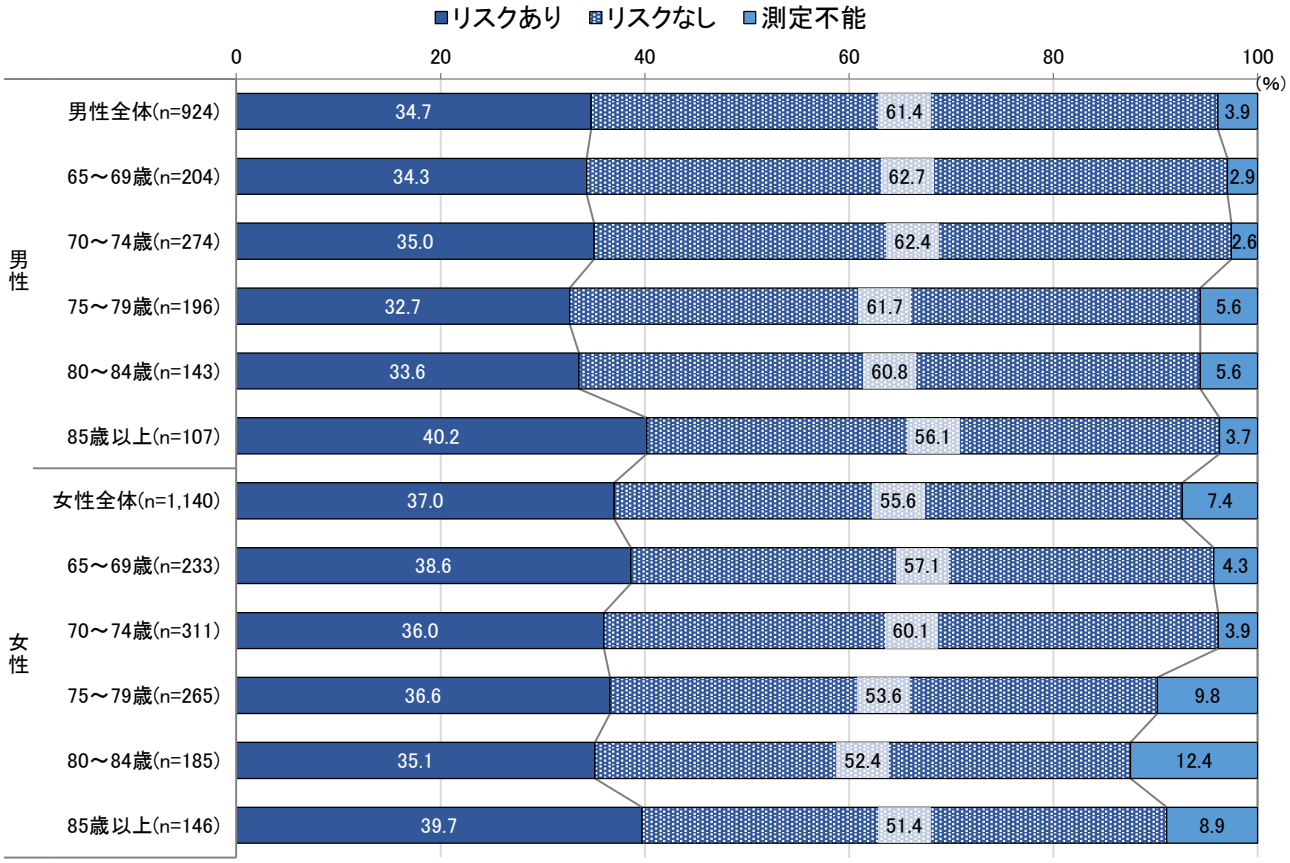
（介護区分別）



④　性別・年齢別の状況

性別・年齢別でみると、男女ともに年齢による差は見られませんでした。「リスクあり」は 85 歳以上男性が 40.2%と最も高くなっています。

（性別・年齢別）



（２）主観的健康感

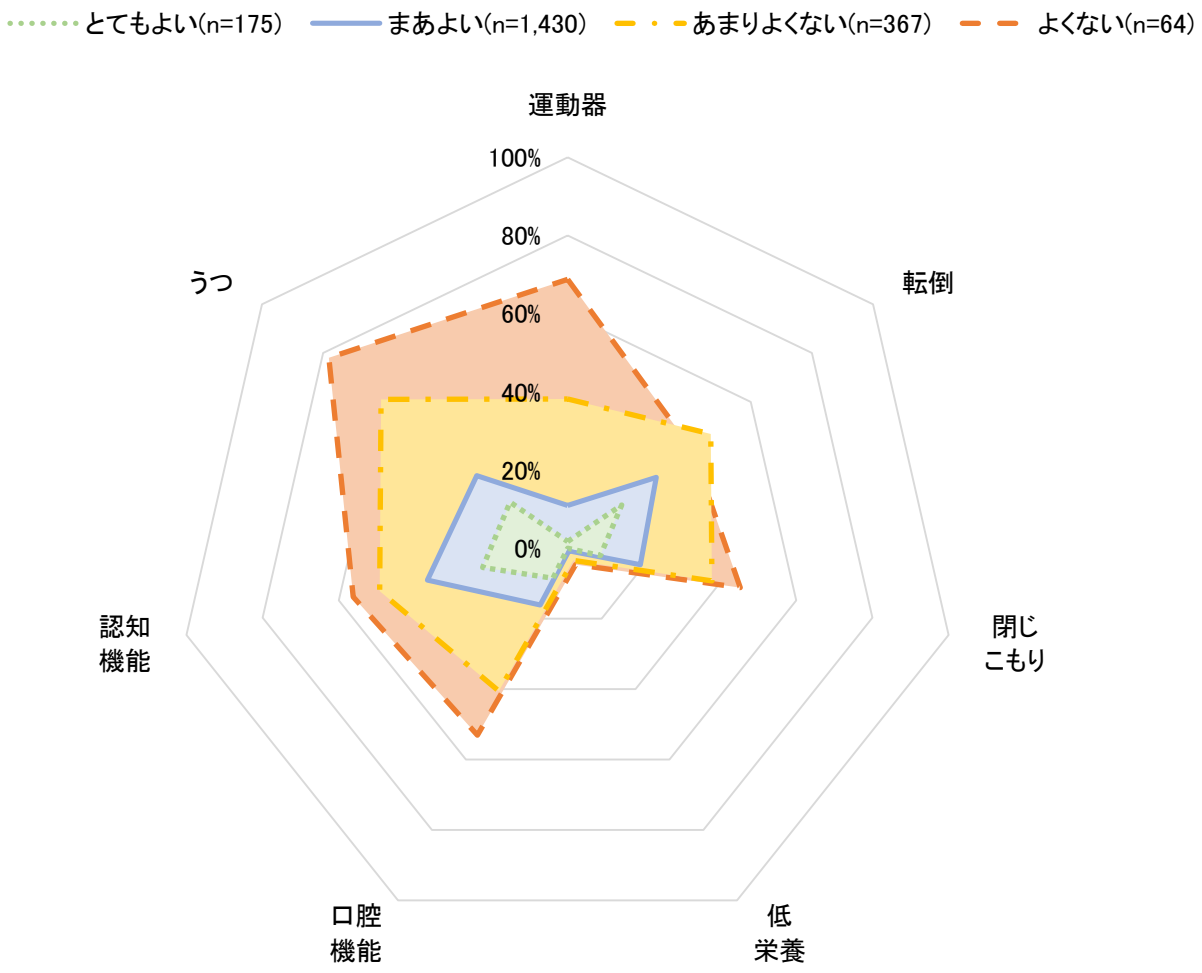
対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問７（１）	現在のあなたの健康状態はいかがですか	「１．とてもよい」 「２．まあよい」 「３．あまりよくない」 「４．よくない」

主観的健康感と各リスク者との関係をみると、主観的健康感が良い人ほど、リスク者割合が低くなっています。

特に、「運動器」においては、「とてもよい」が 1.7%、「よくない」が 68.8%となっており、67.1 ポイント差となっています。

（主観的健康感と各リスク者との関係）



リスク項目	とてもよい(n=175)	まあよい(n=1,430)	あまりよくない(n=367)	よくない(n=64)
運動器	1.7%	10.9%	38.1%	68.8%
転倒	17.7%	29.0%	46.9%	40.6%
閉じこもり	8.6%	19.1%	37.9%	45.3%
低栄養	0.0%	0.8%	3.5%	4.7%
口腔機能	8.6%	16.2%	40.6%	53.1%
認知機能	22.3%	36.8%	49.3%	56.3%
うつ	18.9%	29.7%	61.0%	78.1%

（３）主観的幸福感

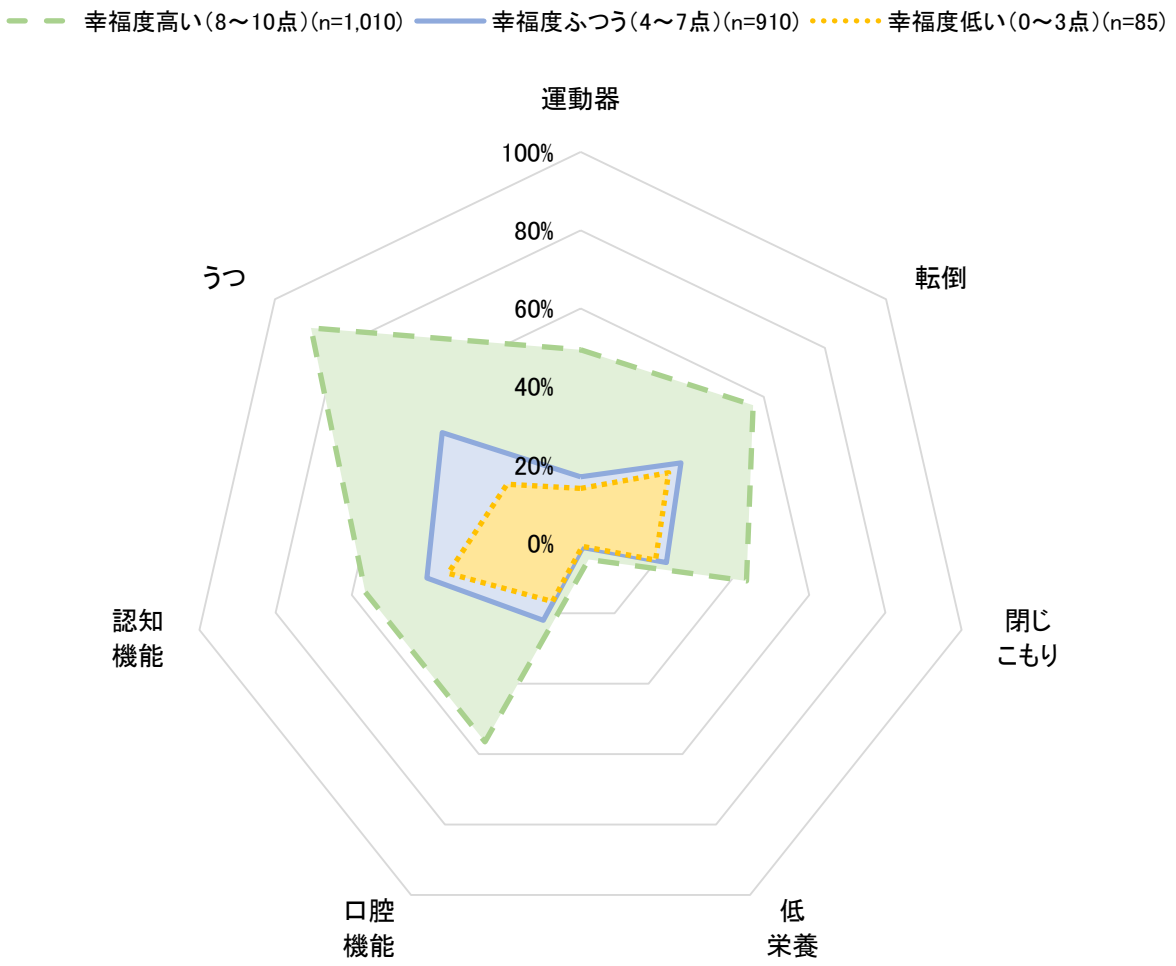
対象設問

問番号	設問内容	選択肢
問７（２）	あなたは、現在どの程度幸せですか （「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください）	「０点」～「10 点」の 11 段階

主観的幸福感と各リスク者との関係をみると、主観的幸福感が高い人ほど、リスク者割合が低くなっています。

特に、「うつ」においては、「幸福感低い」が 88.2%、「幸福度高い」が 24.1%となっており、64.1 ポイント差となっています。

（主観的幸福感と各リスク者との関係）



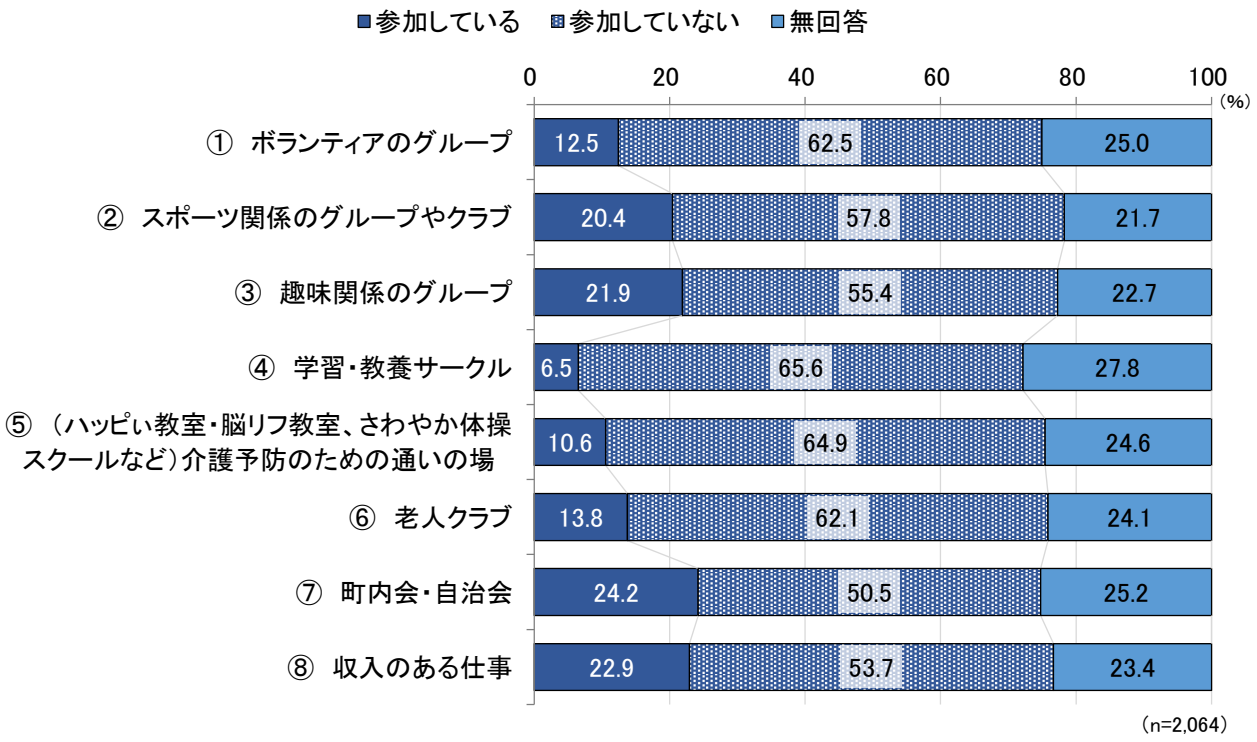
リスク項目	幸福度高い（8～10点）(n=1,010)	幸福度ふつう（4～7点）(n=910)	幸福度低い（0～3点）(n=85)
運動器	14.0%	16.9%	49.4%
転倒	28.8%	32.9%	56.5%
閉じこもり	19.7%	22.5%	43.5%
低栄養	1.0%	1.3%	4.7%
口腔機能	16.6%	22.0%	56.5%
認知機能	34.8%	40.3%	56.5%
うつ	24.1%	45.3%	88.2%

５．社会資源等の把握

（１）会・グループ等への参加状況

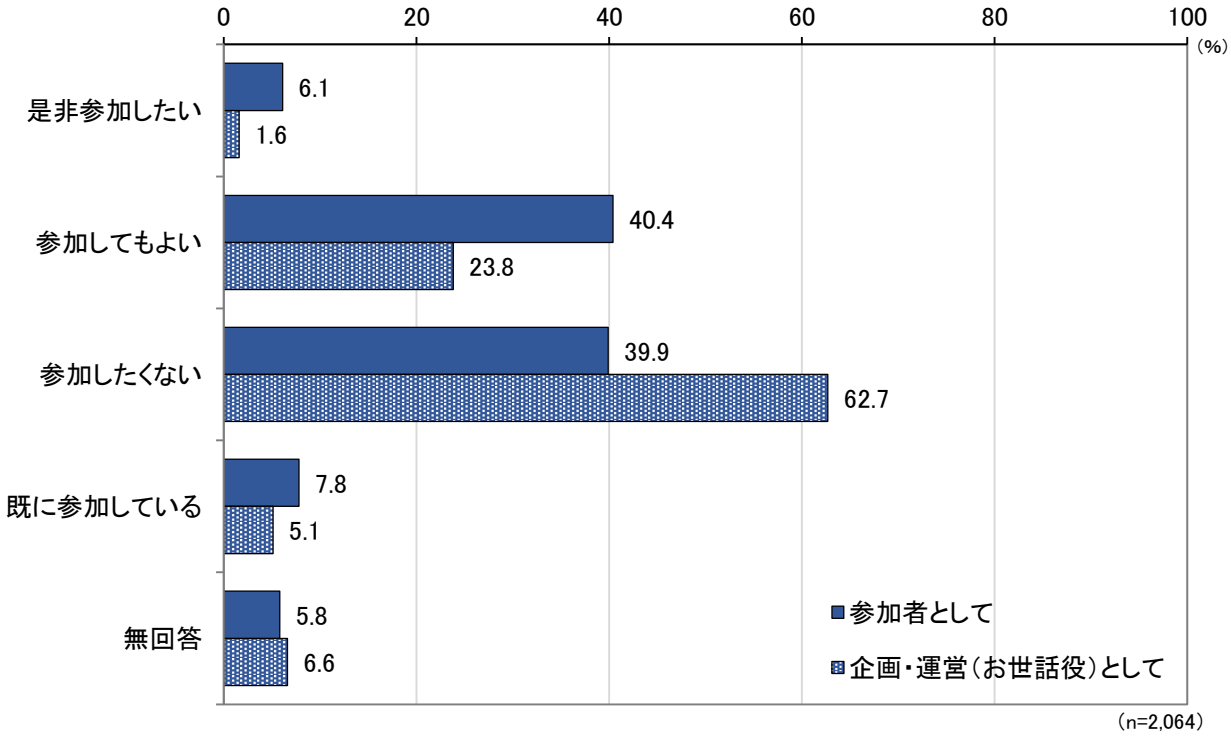
会・グループ等への参加頻度をみると、町内会・自治会への参加が多い傾向にあります。
一方で、学習・教養サークルや（ハッピぃ教室・脳リフ教室、さわやか体操スクールなど）介護予防のための通いの場への参加状況は比較的少ないことが分かります。

（会・グループ等への参加状況）



（２）健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加してみたいと思うかと尋ねたところ、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 46.5%となっており、市民の約半数が地域づくり活動に参加したいと考えていることが分かります。

また、企画・運営（お世話役）として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 25.4%となっており、４人に１人が地域づくりを自らの手で企画・運営したいと考えていることが分かります。

（健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向）